

置トシテハ早期ノ努責ヲ禁シ内診ヲ慎重ニシ務メテ胎胞ヲ長ク保存セシメ産婦ノ臥位ハ兒頭ノ向ヘル側方ニ就カシメ胎胞已ニ破ル、ニ於テハ殊ニ注意シテ内診ヲ施シ小兒ノ顔面ヲ損傷スヘカラス會陰防護ハ側臥位ニ於テシ安リニ壓迫ヲ加フルトキハ小兒ノ頸部ヲ耻骨ニ押壓シ其血行ヲ妨ケ死ニ至ラシムルコトアレハ注意スヘシ兒頭已ニ産出セハ他ノ處置ハ頭蓋位ト異ナルコトナシ

(178) 額位分娩ヲ説明セヨ

額位トハ前額部ヨリ産出スルモノニシテ極メテ稀レナリ内診スレハ骨盤入口ノ中央ニ前額ヲ觸レ一側ニハ大顛門他側

ニハ鼻梁ノ存スルヲ知ルヘシ此位置ヲ取ルトキハ兒頭大斜經ヲ以テ骨盤内ニ進ミ其周圍經最モ大ナルカ故ニ頭位ノ分娩中最モ困難ナル分娩ナリトス

(179) 骨盤端位ヲ説明セヨ

胎兒ノ骨盤部母体ノ骨盤入口内ニ位スルモノヲ云フ而シテ其先進部ノ臀部ナルト膝部ナルト足部ナルトニヨリ之レヲ臀位、膝位、足位ノ三種トス足位ヲ全足位、不全足位ノ二者ニ區別ス骨盤端位中最モ多キモノハ臀位トス又骨盤端位ハ多産婦、狭窄骨盤、及ヒ流産兒若クハ早産兒ニ屢々見ル處ノモノナリトス

臀位(實地)
(仙臺)

(180) 臀位ノ内外検査所見

臀位内検査
所見(山梨)

外検査ニ據レハ子宮底ノ中央若クハ側方ニ於テ圓形硬固ナル兒頭ヲ觸知シ耻骨上方ニ於テハ柔軟ナル圓形ノ臀部ヲ觸ルヘシ心音ハ臍部ノ高サ若クハ其上方ニ於テ第一臀位ナレハ左方第二臀位ナレハ右方ニ聽收ス小體部ハ深ク下腹部ニ位シ時トシテ全ク觸知シ得サルコトアリ
内検査ニ據レハ腔穹隆部ヲ隔テ、柔軟ニシテ不正圓形ノ臀部ヲ觸レ其臀部ノ一側ニハ尖レル尾骶骨ト其上方ニアリテハ背面ト不平ナル薦骨トヲ探知スヘシ又々臀部ノ前方ニハ小ニシテ移動スヘキ足部アリ指ヲ以テ此レニ觸ル、并ハ容易

ク逃去ル子宮開大セハ卵膜破レサルモ指ヲ以テ詳カニ臀部ヲ觸知シ得ヘシ

(181) 第一臀位分娩器械的作用

胎兒腰部ノ廣經骨盤入口ニ於テハ第二斜經線或ハ横經線稀レニ第一斜經ニ位スルコトアリ然ルトキハ背面左後方ニ向フヲ取リ骨盤出口ニ至レハ左ノ臀部右前方ヨリ耻骨縫際下ニ來リテ止マリ右臀ハ會陰部ヨリ産出ス臀部全ク産出セハ腹面ハ母体ノ右側ニ向フ足ハ高ク舉上シ胸部ト共ニ顯ハレ若クハ膝ヲ屈シ臀部ニ沿フテ位シ之レト共ニ産出スヘシ次ニ肩胛ハ第二斜經ニ就キテ骨盤内ヲ下リ下口ニ至ルニ隨ヒ

足位(實地)
(仙臺)

臀部ノ産出スルカ如ク左肩胛ハ耻骨縫際下ニ停止シ右肩胛
會陰部ヨリ出テ遂ニ兩肩胛全ク産出ス此際上肢ハ胸前面ニ
在リテ交叉シ共ニ外陰部ニ顯ハル爾後兒頭ハ屈伏ノ位置ヲ
取リ頤部胸上ニ接着シ兒頭ノ直經骨盤入口ノ横經若クハ第
一斜經ト一致シテ腔内ニ來リ漸次ニ廻轉シテ後頭ハ耻骨縫
際下ニ停止シ頸部ハ始メニ會陰部ヨリ産出シ顔面顛頂部之
レニ次キ終ニ全ク分娩ス産瘤ハ臀部ノ左方ニ生シ時ニ陰部
ニマテ蔓延スルコトアリ

(182) 足位ノ區別及分娩器械的作用

全足位及不全足位ノ二種アリテ各足位中第一足位及ヒ第二

全足位ノ第
一胎向ヲ取
過リ産道ヲ
過スル狀況
ヲ記セ
(東京)

足位ニ區別ス分娩器械的作用第一足位ハ第一臀位第二足位
ハ第二臀位ト異ナルコトナシ只軀幹及ヒ頭部ノ娩出スルコ
ト容易ナラサルモノナリ是レ其先進部ハ小ナル足脚ナルカ
故ニ此ノ先進部体ヲ以テ産道ヲ開大スルコト充分ナラサル
爲メナリ

(183) 骨盤端位分娩ノ害ナキ場合

陣痛強盛ニシテ骨盤廣ク小兒過大ナラス軟部産道善ク開大
延張シ得ルトキハ毫モ母兒兩體ニ害ナクシテ自ラ分娩ヲ營
ムコトヲ得ヘシ若シ陣痛其他ニ於テ障害アルトキハ多少ノ
害ハ免ル、コト能ハス

(184) 各骨盤端位分娩ノ障害

骨盤端位中特ニ佳良ナルハ臀位ナリトス不全足位之レニ次
キ全足位最モ不良ナリ是レ全足位ナルトキハ産道ヲ開大延
張セシムルコト最モ不充分ナルカ故ニ肩胛及ヒ頭部ノ産出
スル際ニ於テ甚シキ障害ヲ蒙ルニ由ル加之全足位ニ於テハ
産道ヲ壓開スルコト少ナキニヨリ産婦ハ有益ナル努責ヲ營
ムコト少ナク且ツ安リニ不法ノ牽引ヲ試ミラレ易ク然ルト
キハ爲メニ小兒ノ頤部ハ胸上ヲ離レ上肢ハ容易ク舉揚セラ
レ大ニ娩出ノ害ヲ招クヘシ且ツ甚々小兒ヲ死ニ陥リ易カラ
シム

(185) 骨盤端位ノ分娩ハ何故ニ小兒

死亡シ易キヤ

(1) 臍帶ノ壓迫 骨盤端位ニアリテハ臍部マテ産出スルモ産
道ノ開大スルコト尙ホ小ニシテ肩胛及頭部ハ甚々大ナル
カ爲メ玆ニ臍帶ヲ壓迫シ分娩ニ時間ヲ費ヤスヘシ如此臍
帶ヲ壓迫スルコト五分時以上ナルトキハ小兒ヲシテ死ニ
陥ラシム又臀部ハ小ニシテ骨盤入口ヲ充分充塞セサルニ
ヨリ臍帶脱ヲ發スヘシ然ルトキハ特ニ早ク臍帶ノ壓迫ヲ
生スヘシ
(2) 胎盤ノ剝離 骨盤端位ニ在リテ兒頭未タ産出セサルニ當

子宮ノ變小スルカ故ニ胎盤ニ剝離ヲ生シ易ク以テ小兒ヲ死ニ致ラシムヘシ

(3) 胎水ノ早期流泄、骨盤端位ハ頭蓋位ト異ナリ其先進部小ニシテ産道ヲ充塞セサルカ爲メ胎水ノ全部直チニ胎胞ノ上ニ押壓シ來ルモノナルカ故ニ産婦ノ努責若クハ粗暴ノ検査ニヨリ容易ニ胎胞破開シテ早期ニ流泄スルモノナリ胎水早ク流泄セハ子宮縮小貧血シ胎盤ノ物質交換不良トナリ加之胎胞欠クヲ以テ子宮口ヲ壓開スルコト遅ク分娩ニ時ヲ費ヤシ爲メニ胎兒ヲ死ニ陥ラシム

(186)

骨盤端位分娩ノ處置

妊娠ノ末期ニ際シ骨盤端位ナルヲ知ラハ先ツ外回轉術ヲ施シテ之レヲ頭蓋位ニ整復スルヲ緊要ナリトス已ニ分娩時ニ迫リ此ノ位置ヲ取ルモノニアリテハ産科醫ヲ托スヘシ産婆ハ消毒材料産床用諸品小兒回生ニ用フル「カテーテル」其他温湯冷水等ヲ準備シテ醫師ノ來ルヲ待ツヘシ又タ醫師ヲ招ク能ハスシテ産婆自ラ之レヲ處置スルハ先ツ産婦ヲ仰臥セシメ少シク臀部ヲ高カラシメ小兒ノ臀部産出ノ際ハ一手ヲ以テ會陰ヲ防護シ他ノ手ヲ以テ兒ノ臀部ヲ支持シ其産出ヲ扶クヘシ次ニ胸部露出セハ劇シク努責ヲ命シ兒體ヲ強ク母ノ腹面ニ向ケテ舉揚シ以テ後側ノ肩胛ヲ娩出セシメ肩胛全ク娩出セハ産婦ヲ一層強ク努責セシメ兒體ヲ母ノ腹面ニ向

ケテ益々舉揚シ一手ヲ以テ會陰ヲ防護シ以テ兒頭ヲ産出セシム小兒産出後ハ正規分娩ノ虞置ト異ナルコトナシ若シ胎兒胸部マテ娩出シ上肢ハ舉上シテ産出セサルトキハ先キニ後方ノ一手ヲ牽出スヘシ則チ産婆ハ同名ノ手ヲ深ク産道内ニ送り之レヲ牽下シ次ニ兒體ト共ニ前方ノ手ヲ後方ニ廻旋シテ其同名手ヲ産道内ニ送りテ之レヲ牽下スヘシ

(187) 横床ノ必要及ヒ設備

骨盤端位ニアリテハ娩出術ヲ施スニ最モ適當ナルハ横床位ニシテ則チ産婦ヲ寢臺ノ横ニ臥サシメ産婦ノ上腿ハ布片ヲ纏ヒ安全針ヲ以テ固定シ襪ヲ穿タシメ臀部ヲ床端ニ置キ臀

下ニハ布片ヲ以テ被包セル枕子ヲ装置ス而シテ寢臺ニ沿フテ二個椅子ヲ對向セシメ産婦ノ兩脚ヲ載スヘシ若クハ三人ノ介者其椅子ニ就テ産婦ノ兩脚ヲ固持スヘシ術者ハ其中間ニアリテ手術ヲ施スニ便ナラシムル法ナリトス

(188) 骨盤端位挽出術

此挽出術ヲ行フニハ豫メ坐側ニニ%石炭酸水ヲ備ヒ之レヲ以テ術者ノ手ヲ消毒シ胎兒ノ體部ハ同シク石炭酸水ニ浸セル布片ヲ以テ被包シ足部ナルトキハ拇指ト示指トヲ以テ之レヲ把持シ己ニ下脚ノ露出スルトキハ可及的兩手ヲ用キ拇指ヲ其後側ニ貼シテ把握スヘシ臀部ノ娩出セルトキハ兩手

骨盤端位挽出術(東京)
骨盤端位挽出術(實地)
(仙臺)

ノ拇指ヲ薦骨上ニ貼シ以テ骨盤部ヲ握ル同時ニ介者ヲシテ
 下腹上ヨリ子宮ヲ骨盤内ニ壓セシメ胎兒ヲ少シク牽引シ傍
 ラ兒體ヲ廻施シ肩胛ノ下角マテ娩出セハ肩胛ノ廣經ト骨盤
 下口ノ直經線ト一致スルニ至ラシムヘシ此時期ニ至レハ上
 方ニ舉上セル兒足ハ自ラ脱下スヘシ次テ術者ノ手ヲ胸部ニ
 進メ兩拇指ヲ脊推ノ兩側ニ貼シテ胸廓ヲ把持シ牽引スヘシ
 腹部ハ内臟ヲ損傷スル恐レアルヲ以テ把握スヘカラス挽出
 ノ間兒背後側ニ向フカ若クハ向ハントスルトキハ前方ノ腕
 部ヲ頗ル強ク牽引シ且ツ兒體ヲ廻旋シテ前方ニ對向セシメ
 ノコトヲ要ス兒背若シ後方ニ向フトキハ上肢ハ耻骨ニ支ヘ
 ラレ之レヲ牽出スルコト難ク頭部ノ挽出モ亦困難ナルモノ

ナリ

此ノ如クシテ胸部挽出シ肩胛ヲ前後ニ向ハシムルトキハ則
 チ上肢ヲ牽下セサルヘカラス而シテ此レニ緊要ナル三ヶ條
 ノ規則アリ

- (1) 上肢ハ常ニ同名手ヲ用ユ則チ兒ノ右手ヲ牽下スルトキハ
 術者右手ヲ用キ小兒ノ左手ハ術者ノ左手ヲ應用スヘシ
- (2) 薦骨ノ方向ニ對スルト上肢ヲ最初ニ牽下スヘシ
- (3) 前方ニ位スル上肢ハ先ツ後方則チ薦骨ノ方向ニ廻旋シタ
 ル後挽下スヘシ

例之第一臀位ニ施術スルトキハ先ツ左手ヲ以テ小兒ノ臀部
 ヲ握リ之レヲ舉上シ且ツ強ク母體ノ右側ニ偏倚セシメ而シ

テ術者右手ノ四指ヲ伸展シ産道ノ後側ニ沿ヒ其手ヲ兒ノ腕關節又ハ前膊ノ中央ニ送りテ其部ヲ把握シ小兒ノ上肢ヲ以テ其顔面ヲ摩スルカ如クシテ母体ノ右下方ニ牽下シ同時ニ小兒ノ臀部ヲ強ク母体ノ左側ニ移シ上肢ヲシテ肘關節ヲ屈シ腔ノ前側ニ來ラシム次ニ前方ノ上肢ヲ牽下スルニハ右手ヲ以テ腕部ヲ握リ左手ヲ前在上肢ト兒頭トノ間ニ深ク送り兩手ヲ併セテ兒體ヲ廻施シ其背ヲ全ク右方ニ對向セシメ而シテ後テ術者ノ左手ヲ以テ右手ヲ牽下セシ方法ニヨリテ之レヲ牽下スヘシ此ノ如ク兩上肢ノ挽出終ラハ術者ハ直チニ左手ノ示指及中指ヲ小兒ノ口内ニ送り其下唇縁上ニ置キ其他ノ諸手ヲ以テ胸部ヲ把握シ同時ニ他手ノ示指ト中指ヲ以

テ背側ヨリ頸部ヲ狭ミテ小兒ノ肩胛ニ懸ゲ以テ小兒ノ後頭ヲ正シク耻骨弓下ニ來シ次テ兒頭ヲ前上方ニ牽引シ顔面ヲ會陰外ニ娩出セシム此際注意シテ會陰破裂セサルコトヲ務ムヘシ其他妄リニ胎兒ニ強力ヲ加フヘカラス否ラサレハ上肢若クハ鎖骨等ノ骨折ヲ致スコトアリ

(189)

骨盤端位分娩ニ際シ母兒危險

ナルトキノ處置

小兒ノ危險徴ハ陣痛休歇時ニ心音緩徐大凡八十搏)ニシテ不規則トナリ若クハ百八十搏以上疾數トナリ臍帶ノ搏動モ緩慢若クハ幽微トナルヘシ但シ胎尿ノ漏泄ハ臀位ニアリテハ

危険ノ徴ニアラス此ノ如ク胎兒ニ危険徴ヲ呈スルカ若クハ母體ニ危険アリテ直ニ挽出ヲ要スル場合ハ臀部ノ娩出スルヲ待タスシテ速ニ娩出法ヲ講セサルヘカラス則チ臀部ニアリテハ一手ノ示指ヲ釣狀ニ曲テ前方ニアル股ノ屈曲部ニ掛ケ下方ニ向ケ下腿ヲ牽出シ以テ臀部ヲ把握スルニ便ナラシメ足位ナルトキハ両手ヲ以テ先進セル一足ヲ把持シテ挽出術ヲ施スヘシ

(190) 双胎分娩ノ經過

双胎分娩ノ經過(東京)

分娩ノ初メニハ第一兒ノ胎胞現ハレ正規ノ如ク産出シ次ニ第二兒ノ胎胞出テ、分娩ヲ終ヘ後チ胎盤娩出スヘシ稀レニ

ハ第一兒分娩スルヤ其胎盤産出スルコトアリ兩兒分娩ノ時間ノ差ハ時トシテ甚ク短キコトアリト雖トモ十五分乃至三十分ノ差アルヲ常トス稀レニハ十二時乃至二十四時ノ差アルコトアリ極メテ稀レニ第一兒分娩後第二兒ハ尙ホ數月間胎内ニ止マルコトアリ全分娩ノ時間ハ單胎ヨリ短キヲ常トス之レ胎兒ノ發育不完全ニシテ体軀小ナルニヨル

(191) 雙胎分娩ノ豫後及處置

雙胎ニアリテハ母體ハ過度ニ腹部膨滿スルニ依リ呼吸若クハ消化ヲ妨ケラレ種々ノ疾病ヲ生スヘク分娩時ニアリテハ陣痛微弱ヲ起シ又骨盤端位横位等不良ノ胎位ヲ取ルコトア

リ小兒ハ發育不良ナルカ爲メ死ニ至ルモノ少カラス
 處置 概シテ正規分娩ト異ナルコトナシ而シテ第一兒産出
 セハ其臍帶ノ斷端ハ殊ニ緊シク結紮スヘシ是レ兩兒ニシテ
 一胎盤ヲ有スルトキハ臍帶ノ斷端ヨリ出血セハ第二兒ノ血
 液ヲ失ハシムル害アレハナリ而シテ胎盤ノ早期剝離ノ爲メ
 第二兒ヲ危險ナラシムルコトアルカ故ニ殊ニ注意シテ心音
 ヲ檢シ産出セル小兒ハ發育不良ナルカ故ニ注意シテ温暖ナ
 ラシムルヲ要ス然ラサレハ容易ク死亡スルコトアリ
 雙胎分娩ニ際シテハ第一兒第二兒トニ目標ヲ付スヘシ目標
 ニハ手若ハ足關節部ニ小縮帶ヲ纏結シ若ハ臍帶結紮糸ヲ付
 シ置クヘシ是レ兄弟姉妹ノ順序ヲ定ムルニ必要ナレハナリ

(192) 分娩中胎兒生活死亡ノ診斷

分娩中胎兒生活死亡ノ診斷 (192)
 分娩中胎兒生活スルトキハ(1)心音ヲ聽收シ(2)胎動ヲ觸知シ
 (3)分娩遅延スルトキハ産瘤増大シ(4)若シ臍帶脱アルトキハ
 其搏動ヲ觸レ得ヘシ但シ兒背ノ方向胎動ノ停休其他ノ事情
 ニヨリ以上ノ徴ヲ認知シ難キコトアリ
 又分娩中胎兒死亡ノ診斷トシテ(1)漏泄セル胎水綠色ヲナシ
 テ一樣ニ混濁シ(2)頭部先進スルトキハ頭蓋骨ノ縫合弛緩シ
 甚シク移動シ髌位ナレハ肛門膨開セルヲ認ム(3)先進部ノ表
 皮殊ニ手足ノ外表ハ片狀ヲナシテ剝離スヘシ但シ梅毒ニ於
 テハ生兒ト雖トモ此ノ如ク表皮ノ剝離スルモノアリ

分娩中胎兒
 生死ノ診斷
 (福岡)

分娩期前ニ
 於テ胎兒ノ
 死亡トキハ
 徴候(仙臺)

分娩中胎兒
 危險ニ瀕セ
 シ時ノ徴候
 (廣田)

分娩中胎兒
 死亡ノ徴候
 (名古月)

(193)

横位トハ如何ナルモヲ云フカ

胎兒横ニ子宮内ニ在ルヲ云フ然レトモ正シク横ニ位スルモ
ノ稀レニシテ必ス多少斜ノ位置ヲ取ルカ故ニ之レヲ斜位ト
名クテ面シテ肩胛部ノ先進スルヲ以テ或ハ肩胛位ト稱ス斜位
ニシテ臀部ノ先進スルモノハ分娩ニ際シ通例臀位若クハ足
位ニ變スルモノナリ

(794)

横位ノ區別及ヒ原因

横位ニシテ兒頭母体ノ左ニ在ルヲ第一横位右ニ對スルモノ
ヲ第二横位ト云フ更ニ第一横位ニシテ兒背母体ノ前ニ向フ
ヲ第一横位ノ第壹分類ト云ヒ後ニ向フモノヲ第一横位ノ第

横位(實地)
(仙臺)

二分類ト云フ故ニ兒頭右ニ位シ兒背前ニ向フトキハ第二横
位ノ第一分類ト云フ

原因。多産婦ニシテ子宮壁及ヒ腹壁弛緩シ胎兒移動シ易キ
モノ、胎兒ノ小ナルモノ、双兒ノ第二兒、軟化セル死胎兒、羊膜水
腫、狭窄骨盤、懸垂腹等ハ横位ノ原因トナル而シテ羊膜水腫
狭窄骨盤ニアリテハ兒頭骨盤内ニ進入スル能ハスシテ横位
トナルヘク其他ハ胎兒運動シ易キカ爲メニ此位置ヲ取ルモ
ノナリ

(195)

横位ノ外検査

腹部ハ横ニ廣ク子宮ハ正規ノ卵圓形ヲナス觸診スルニ子

横位(徵候)
(松本)

横位ノ徵候
及外回轉術
(名古屋)

第二横位ノ
一分類
(摸型)
(仙臺)

宮底及耻骨縫際ノ上部ハ空虚ニシテ胎兒ノ體部左右兩側ニ
 位シテ小體部ハ通常臀部ノ近傍ニ在リ而シテ其小體部多ク
 シテ明瞭ニ觸知シ得ラル、トキハ兒腹前方ニ向ヘルノ徵ナ
 リトス。心音ハ腹部ノ中線若クハ兒頭ノ側ニ聽收ス。横位ニシ
 テ肩胛骨ハ骨盤内ニ壓入セラレタルトキハ胸部モ亦其ニ
 嵌入シ兒頭ハ頸幹ニ接着セラレ子宮ハ横經ノ擴張ヲ失ヒ外
 檢査上縦位ト區別シ能ハサルコト屢之レアリ

(196) **横位ノ内檢査**

胎胞尙ホ存スルホキハ一ニ胎兒ノ部分ヲ觸ルル能ハス此故
 ニ産婦ヲ内診スルニ當リ此ノ如キ狀況ヲ見テ横位ノ疑ヲ起

横位ニシテ
第一胎向第
一分類ニテ
腔内ニ右手
トキノ診察
(大坂)

シテ可ナリ而シテ横位ニアリテハ二三指若クハ半手ヲ深ク
 腔内ニ送ルニ及ビ骨盤入口上ニ初メテ肩胛ヲ觸知スヘシ且
 ツ其肩胛ハ肩胛骨鎖骨及ビ肋骨ノ存スルニヨリテ明瞭ナル
 ヘシ則チ肩胛骨ハ三角形ニシテ其下角ハ下脣ヨリ提擧スヘ
 ク鎖骨ハ彎曲シテB字狀形ヲナシ肋骨ハ隣々相並フヲ以テ
 特異ナリトス肩胛ノ胸部ト共ニ緊シケ骨盤内ニ壓入セラレ
 タルモノハ其胸部圓形トナリ爲メニ甚シキ産瘤ヲ生シタル
 頭蓋位ト誤認スルコトアリ

(197)

頭背ノ方向及ヒ先進手ノ鑑定

是レ最モ緊要ノコトニシテ則チ肩胛骨ノ相對スル方ハ背部

ナリ腋窩ノ開ケル方向ハ臀部ニシテ閉タル方位ハ頭部ナルヲ知ルヘシ又タ脱出セル手ノ左右ヲ知ランニハ檢者ノ手掌ニ脱出セル手背ヲ乘スヘシ然ルトキニ兩者兩拇指相對スルトキハ異名手ニシテ拇指ト小指ト相向フトキハ同名手ナリト知ルヘシ又脱出手ト握手シテ兩者拇指相對向スルモノハ同名手ナルヘシ

(198) 先進四肢ノ鑑別

- (1) 足ハ踵ヲ有スルモ手ハ否ラス
- (2) 足趾ハ短クシテ手指ハ長シ
- (3) 足趾ノ拇趾ト示指トノ間隔短ク手指ハ相離隔ス

(4) 足拇趾ハ示趾ノ長サト大差ナキモ手ノ拇指ハ甚々短シ

(199) 横位分娩ノ經過

横位ハ人工ノ補助ヲ受クルニアラサレハ自ラ分娩ヲ遂クル能ハサルヲ常トス若シ之レヲ自然ノ經過ニ委センカ胎水早ク漏泄シ一二時間ノ後ニ至レハ陣痛増劇シ肩胛ハ深ク骨盤内ニ壓入シ以テ肩胛モ共ニ壓入セラレ兒頭ハ反テ上方ニ退クヘシ胎水全ク漏泄スルニヨリ子宮壁ト胎兒トハ密着シ且ツ子宮下部ハ漸次菲薄トナリ陣痛終ニ痙攣性ニ變シ疼痛甚シク時トシテ子宮強直ヲ起シ次テ子宮下部ノ壁質大ニ延張セラレテ紙ノ如ク菲薄トナリ終ニ陣痛ノ發作ト共ニ一頓ニ

破裂シ胎兒ハ腹腔内ニ墜落シ甚シキ出血ヲ發シテ母体ハ死
亡スルヲ常トス或ハ子宮破裂セスト雖トモ時トシテ壓迫ノ
爲メニ軟部産道懐疽ニ陥リ且ツ長ク時間ヲ費ヤスヲ以テ子
宮内ニ腐敗ヲ發シ産婦ハ虚脱ニ陥リ死亡スヘシ小兒ハ分娩
ノ初メ脱出セル臍帶壓迫セラレ次ニ強度ノ子宮收縮及ヒ胎
盤剝離等ノ爲メニ生命ヲ失フモノナリ

(200) 横位ニシテ自ラ分娩スル場合ヲ記セ

恐ルヘキ横位モ時トシテ自ラ分娩ヲ遂クル場合アリ此レニ
二種アリ

(1) 自己回轉 則チ分娩ノ始メ適當ノ臥位ヲ與フルニヨリ頭

部若クハ骨盤部下降シテ縦位ニ變シテ正規ノ分娩ヲ遂ク
ルモノナリ

(2) 自己産出 兒頭ハ上部ニ支障セララル、ニ際シ強劇ナル陣
痛ト骨盤ノ廣潤ナルトニヨリテ胎兒ノ下體ハ漸次ニ薦骨
窩内ニ下リ遂ニ臀部初メニ産出シテ臀位トナリテ自ラ娩
出ヲ遂クモノナリ

蓋シ此ノ如キ場合ハ骨盤廣潤ナルヘク胎兒小ナラサルヲ
得ス故ニ通常ノ成熟胎兒ニ於テハ之レヲ見ルコト少ナク
死胎兒未成熟胎兒若クハ軟化セル胎兒ノミ自己産出ヲ遂
ヘキノミ

横位分娩ニ於ケル産婆ノ處置 (長岡)

(201) 横位分娩ノ處置

已ニ妊娠中ニ於テ横位ナルコトヲ診知セハ外回轉斷ヲ施シテ頭位ニ變セシメンコトヲ務ムヘシ尙ホ分娩ニ際シ羊水漏泄セサル間ハ此法ヲ行フコトヲ得ヘシ子宮壁緊張シ外回轉術ヲ施シ能ハサルトキハ速カニ産科醫ヲ招クヘシ時期遷引シ治期ヲ誤ラサルヲ要ス醫師ノ來ラサル間ハ産婦ヲ頭部ノ在ル側方ニ臥サシメ努責ヲ禁シ可及的胎胞ヲ保存セシムヘシ尙ホ手術ニ要スル器具材料ヲ準備シ置クヘシ

(202) 外回轉術

横位ノ徴候及ヒ外回轉術(名古屋)

外回轉術ハ横位ノ妊娠中若クハ分娩ニ先タチ子宮ノ末々緊張セサルトキニ於テ適應スヘキ術ニシテ其法左ノ如シ
妊婦ヲ仰臥セシメ腹上ニ手ヲ貼シ先ツ兒頭ヲ下方則チ骨盤上口ニ向テ壓下シ此レト同時ニ他手ヲ以テ臀部ヲ上方則チ子宮底ニ向テ壓上スヘシ而シテ兒頭ノ骨盤上口ニ祛リ來ラハ妊婦ヲ元ト兒頭アリシ側方ヲ下ニシテ臥サシメ腹部ニハ強ク綑帶ヲ施スヘシ且ツ枕子ヲ側方ニ差シ込ミ以テ兒頭ノ元位ニ戻ラサル様處置スヘシ此ノ如クシテ稍ヤ正シキ位置ニ復シタル後ハ自然ノ經過ニ委スヘキナリ此術ヲ名ツケテ外回轉ト云フ

(203) 頭蓋位ノ上下肢脱出ノ原因

兒頭骨盤口ニ進入シ來ル際玆ニ多少ノ空隙ヲ生スルニヨリテ上下肢ノ脱出ヲ生スヘシ故ニ狹窄骨盤、懸垂腹羊腫水腫、羊水早漏、過大胎兒等ニテ兒頭完全ニ骨盤内ヲ充塞シ得サル時ニ發ス殊ニ急劇ナル陣痛ノタメニ一頓ニ羊膜破裂セシトキニ發ス此レニ反シ過廣骨盤、過小胎兒、早産兒等モ兒頭骨盤口ニ進入セハ同シク空隙ヲ餘スヲ以テ此ノ脱出ヲ發スヘシ

(204) 脱出手復納術

母体ノ左側ニ胎兒ノ上肢脱出シタルトキハ術者ハ右手ヲ用

ヒ右側ニ脱出セシトキハ術者ハ左手ヲ用フヘシ則チ其法ヲ施スニハ陣痛休歇時ニ於テ産婦ニ努責ヲ禁シ脱出セル手腕關節部ヲ把握シ骨盤壁ニ沿テ深ク挿入シ兒頭ヲ超ヘテ胸部ノ處ニ還納シ尙ホ指ヲ以テ此レヲ支持シ再ヒ來ル陣痛ニヨリテ脱出セサルトキハ支持セル術者ノ手ヲ拔去リ産婦ヲ脱出手ノ反對側ニ側臥セシムヘシ

(205) 臍帶纏絡ノ障害及其處置

臍帶ノ纏絡ハ通例多キモノニシテ凡ソ二三回ノ分娩中一回

臍帶ノ纏絡
ニ就テ
(大阪)
(福岡)

頸部ニ臍帶
纏絡セシ時
ノ障害及ヒ
處置(東京)

アルヲ見ルヘシ特ニ頸部ニ纏絡スルモノ最モ多シ其纏絡ノ
數一廻若クハ數回ノ多キニ達スルコトアリ通例著シキ害ナ
キヲ常トスレ共稀レニハ妊娠中ニ於テ此纏絡ノ爲メ四肢ヲ
絞斷セラレ或ハ纏絡部ノ絞搾ノ爲メ血行障害シ胎兒死亡ス
ルコトアリ分娩時ニ在リテ纏絡ノタメ臍帶短縮セラル、時
ハ小兒ノ娩出ヲ妨ケ劇痛アル陣痛或ハ出血ヲ發シ胎盤ノ早
期剝離子宮翻展等ヲ致シ或ハ臍帶破裂シ若クハ牽引セラル
ニヨリ血行ヲ障害シ小兒ヲ死亡セシムルコトアリ此ノ纏絡
ハ臍帶ノ長キニ失スルモノニ多ク見ルモノナリ
處置。兒頭産出シ臍帶ノ纏絡ヲ認ムルモ臍帶長クシテ分娩
ニ障害アラサレハ自然ニ委シテ可ナリ但シ纏絡ノ爲メ臍帶

緊張シ軀幹ノ産出ヲ妨クルカ如キコトアラハ其纏絡ヲ解除
若クハ此レヲ切離シテ分娩ヲ速カナラシメ腔内ニ於テ兩端
ヲ結紮スヘシ若シ腔内ニ於テ結紮シ難キ場合ハ小兒産出後
速カニ結紮スヘシ

(206) 臍帶離斷ニ就テ

急劇ナル分娩ニヨリ産床ニ臥スルノ邊ナク起立位ニ於テ娩
出ヲ遂ゲ小兒ヲ床上ニ墜スカ若クハ臍帶ノ甚ク短キモノニ
於テハ胎兒尙ホ産道内ニアリテ臍帶ノ斷裂スルコトアリ斷
裂セル臍帶ハ血管不正ニ斷裂シ管口狭小トナルカ故ニ或ハ
全ク出血セサルコトアリ獸類ノ初生獸ニ於ケル臍帶ハ咬斷

セラレテ出血セザルモ此ノ理ニ基ク但シ離斷セル部臍部ニ近キトキハ出血スルコト多キモノナリ又タ小兒啼泣スルトキハ其出血ノ量ヲ減スルモノナリ是レ急劇ノ呼吸作用ニヨリ胸廓内ニ多量ノ血液ヲ吸引スルニヨル

(207) 臍帶脫ト臍帶先進トノ區別及其原因

臍帶脫トハ胎胞破裂ノ後チ臍帶係狀ヲナシテ先進部ノ下ニ脱出スルカ若クハ先進部ト共ニ進出シ來ルヲ云ヒ臍帶先進トハ全ク臍帶脱出ナルモ胎胞ノ未タ破開セザルニ進出シ來ルモノヲ云フ
原因 上肢ノ脱出ト同シク先進部ノ骨盤腔ヲ充塞セザルニ

臍帶脫ノ原因 (長岡)

臍帶脫ノ原因及ヒ處置 (仙臺)

臍帶脫及ヒ橫位分娩ノ處置 (長岡)

ヨル則チ狭窄骨盤、羊膜水腫、小ナル胎兒、横位、足位等ナリ其他前置胎盤、臍帶ノ甚タ長キモノ等ニ此レヲ發ス又起立位ニ於テ胎水漏泄セル際此レヲ發スルコトアリ

(208) 臍帶脫ノ診斷並ニ處置

内診スレハ卵膜内又ハ子宮口腔内若クハ外陰部ニ於テ搏動アル索條ヲ觸知スヘシ産婆實際ニ於テ産床ニ臨マハ兒頭尙ホ移動スルトキニ於テ胎水漏出セハ臍帶脫ノ有無ヲ檢スルヲ法トス若シ脱出セル臍帶ニ搏動ヲ認メサレハ胎兒ノ死亡セル徵ナリ然レトモ陣痛時ニ在リテハ生活胎兒ト雖トモ壓迫ノ爲メ搏動一時停止スルコトアレハ注意スヘシ臍帶脫ア

胎盤脫出
法ヲ記セ
(長岡)

ルトキハ胎兒ノ生命危險ナリ是レ兒體下產道壁トノ間ニ於
テ臍帶壓迫セラレニヨリ血行ヲ障害スルニヨル特ニ頭蓋位
ノ臍帶脫出ハ最モ不良ナリ足位之ニ次キ臀位ハ最モ危キヨ
ト少ナシ横位ニ在リテハ肩胛部ノ深ク下降セサルトキハ壓
迫ヲ受ケサルモノトス
處置。臍帶先進アルトキハ可及的胎胞ノ破裂ヲ防キ臍帶ヲ
存セサル側方ニ臥サシムヘシ然ルトキハ臍帶退却シテ屢々
整復スルコトアリ胎胞已ニ破裂シテ臍帶脫出スルトキハ可
及的壓迫ヲ避クルカ爲メニ努責ヲ禁シ二三指ヲ陰内ニ送入
シテ兒頭ヲ少シク壓却スヘシ若シ兒頭已ニ骨盤下口ニ進
將ニ產出セシトスルモノニ在リテハ子宮ヲ摩擦シテ陣痛ヲ

催進セシメ劇シク努責ヲナサシム或ハ後會陰壓出法ヲ施シ
テ速ニ兒頭ヲ娩出セシムヘシ經産婦ニシテ分娩容易ナルモ
ノハ兒頭尙ホ骨盤内ニ在ルトキハ雖トモ娩出ノ催進シテ速
カニ分娩ヲ終ラシムヘシ陣痛休歇時ニ於テ臍帶ニ搏動ヲ認
メサルトキハ胎兒ノ死亡セシコト確實ナレハ整復法若クハ
醫師ヲ迎フルノ要ナク自然ノ分娩ニ委アルヲ佳トス

(209) 子宮破裂ノ原因

子宮破裂ハ横位、腦水腫、狹窄骨盤、產道ノ狹窄及ヒ閉塞等分娩
ノ抵抗極メテ大ナルモノ若クハ疾病ノ爲メ子宮組織變質シ
脆弱トナレルモノニ發ス特ニ横位ハ破裂ノ原因トナルコト

最も多シ

子宮破裂ノ
症狀(仙臺)

(210) 子宮破裂ノ徵候

(1) 將ニ破裂セントスルトキハ子宮体ハ漸次上方ニ収縮上昇シ子宮下部ハ延長シテ甚ク非薄トナリ此ノ境界則チ収縮輪ハ殆ント臍部ノ高サニ來リ之レニ觸ルレハ硬索ノ如シ又下腹部ヲ按スルニ疼痛甚シク胎兒ノ体部ハ明カニ觸知セラル産婦ハ甚シク苦悶シ陣痛劇シク脈搏增多スヘシ或ハ此等ノ前徵ナクシテ卒然破裂スルコトアリ

(2) 子宮已ニ破裂ヲ生スレハ産婦ハ下腹部ニ切ルカ如キ劇痛ヲ感シ次テ顔色蒼白體力衰脱陣痛ハ全ク止ム脈細數、四肢

子宮破裂後
ノ徵候(仙臺)

厥冷、人事不省トナリ適當ノ療法ヲ施サレハ出血ノ爲メ速ニ死ニ歸ス而シテ胎兒ハ腹腔内ニ脱下スルヲ以テ觸診スレハ腹部ノ形狀全ク變化シ胎兒ハ子宮外ニ在リテ其体部ハ甚ク明ニ觸知セラルヘシ陰部ヨリハ血液滲シク流出スルト同時ニ腹腔内ニモ血液瀦溜シ胎盤ハ子宮變小スルヲ以テ剝離スヘシ今ヤ内診スルモ先進部體ヲ觸知シ得ヘカラサルニ至ル

(211) 子宮翻轉ノ種別及ヒ原因

(1) 不全翻轉 之レハ子宮底ノ一部子宮腔内ニ陷入セルモノナリ

(2) 全翻轉 ハ則チ子宮ノ全部翻轉シテ腔内若クハ陰裂外ニ下垂スルモノヲ云フ

原因 産婆ノ不注意ニヨリ則チ妄リニ臍帶ヲ牽引シテ胎盤ノ娩出ヲ促カシ又ハ分娩ノ際臍帶短クシテ牽引セラル、カ若クハ子宮弛緩セル際妄リニ胎盤壓出法ヲ試ムル等ニヨリテ來ル

(212) 子宮翻轉ノ症狀及處置

全翻轉ニ在リテハ外陰部若クハ腔内ニ於テ暗紅色ニシテ知覺過敏ナル圓形ノ腫瘍トナリテ顯ハレ時ニ胎盤ノ尙ホ之レニ附着セルコトアリ且ツ耻骨縫際上ニ於テハ子宮ヲ觸知ス

ルコトナシ不全翻轉ナルトキハ耻骨縫際上ニ於テ子宮底ハ漏斗狀ノ凹陷ヲ呈スルヲ觸知スヘシ本病ヲ發スルトキハ急ニ脈搏細數衰脱ヲ發シ甚ク子宮出血ヲ現ハスモノナリ處置 子宮翻轉シ危險ノ徵ヲ現サハ嚴シク手指ヲ消毒シテ腔内ニ送り五指ヲ以テ翻轉セル部ヲ保ツ徐々ニ復納スヘシ若シ容易ク此ノ目的ヲ達シ得サルトキハ三%石炭酸水ニ浸シタル布片ヲ以テ脱出部ヲ包被シ置キ速ニ産科醫ヲ招クヘシ

(213) 子宮頸及ヒ腔破裂

子宮頸ノ破裂ハ子宮口強硬ナルカ若クハ子宮口未タ充分開

大セサルニ手又ハ器械ヲ挿入スル等ニヨリテ生シ臍ノ破裂
 ハ初産婦特ニ高年ニシテ臍ノ延張性少ナキモノ又ハ鉗子挽
 出術等ニヨリテ發ス而シテ此破裂ハ下部ニ發スルコト多シ
 且ツ甚シク深部ニ達シ時ニ臍穹隆部ヲ破リ腹腔内ニ達スル
 コトアリ破裂ヲ生スルトキハ後産期ニ於テ出血シ産褥中ニ
 ハ化膿シテ産褥熱ヲ發シ或ハ治癒ノ後臍ノ狭窄等ヲ遺スコ
 トアリ

(214) 各裂傷性出血ノ處置

石炭酸水ニ浸セル綿花ヲ以テ外陰部ヲ清拭シ其裂傷部ヲ檢
 スヘシ出血若シ外陰部ニ在ルトキハ石炭酸水ニ浸シタル綿

花ノ一塊ヲ取リテ其部ヲ強ク壓抵シテ止血セシム若シ外陰
 部ニ損傷ナク子宮ヨク収縮スルモ尙ホ臍内ヨリ出血スルト
 キハ臍壁或ハ子宮頸ノ損傷ニヨルモノナレハ腰部ニ枕子ヲ
 置キテ少シク高クシ壓抵巾ヲ陰部ニ貼シ兩脚ヲ閉合セシメ
 一手ヲ以テ腹上ヨリ強ク子宮ヲ壓スヘシ此ノ如クスレハ血
 液ノ凝固ニヨリテ止血スルコトアリ若シ此法ヲ施スモ止血
 セサルトキハ臍内ノ栓塞法ヲ施サ、ルヘカラス

(215) 臍内栓塞法

損傷部ノ臍若クハ子宮頸ナルヤヲ檢シ三、四ノ冷石炭酸水ヲ
 以テ臍内ニ灌注シ長サ〇五迷兒幅四指横經ノ脫脂綿數多ヲ

取り豫メ此レヲ轉振シテ断裂シ難カラシメ此レヲ五%石炭酸水ニ浸シテ絞搾シタル後チ盤内ニ容レテ陰部ノ直前ニ置キ産婆ハ一手ヲ以テ陰唇ヲ開キ他手ヲ以テ此ノ綿花ヲ腔内ニ送入シ固ク出血部ヲ壓抵シ漸次送入シテ腔内ヲ充塞スヘシ此ノ如ク腔内ヲ充塞セハ緊シク兩股ヲ閉合シテ安臥セシメ且ツ腹上ヨリ強ク子宮ヲ摩擦シテ収縮ヲ促カシ以テ内出血ヲ防クヘシ或ハ線條ヲ有スル綿花「タンボン」又タ瓦設若クハ手巾ヲ取り石炭酸水ニ浸シ以テ臨機ノ代用品タラシムルモ可ナリ栓塞法ヲ施ス際若シ後産ノ殘片子宮内ニ存スルハコトアラハ壓出法ニヨリ此レヲ娩出セシメタル後ニ栓塞スシ

(216) 會陰破裂ノ種類

會陰破裂ノ種類及ヒ症狀ヲ記セシ(仙臺)

會陰破裂ヲ輕重ニヨリ左ノ三種ニ區別ス
 (1) 第一度 トハ肛門ニ向ヒ會陰ノ半徑以内破裂セルモノ
 (2) 第二度 破裂已ニ肛門ニ達スルモ其括約筋ヲ殘スモノ
 (3) 第三度 全會陰ヲ破リ且ツ肛門括約筋モ共ニ破裂セルモノ
 會陰破裂屢々發スル處ノモノニシテ殊ニ陰唇繫帶ノミ破裂スルモノハ殆ント毎回ノ初産婦ニ之レヲ見ルヘシ會陰破裂ハ分娩處置ノ不良ナルニヨリテ發スルモノナレ共注意シテ處置ヲ施スモ尙ホ此レヲ免レサルコトアリ時トシテ會陰中

中央ノミ孔穴ノ破裂ヲ生スルコトアリ

(217) 會陰破裂ノ原因及ヒ處置

原因ハ胎兒ノ最大ナル部分ノ産出スルニ際シ外陰部ノ延張其極度ヲ超ニ終ニ會陰ノ中線ニ破裂ヲ生スルモノナリ則チ急速ナル兒頭ノ産出分娩處置ノ不良、顔面位等ノ如キ不良ノ胎勢産婦ノ背臥耻骨弓ノ狹隘ナルモノ高年ノ初産婦、鉗子手術等ニ於テ此レヲ發ス又骨盤端位ニ於テ妄リニ後進兒頭ヲ挽出スル際ニ重キ破裂ヲ生スルコトアリ
處置 僅カニ陰唇繫帶ノミ損傷セルモノハ石炭酸水或ハ硼酸水ヲ以テ洗滌シ沃土ホルムヲ撒布シ正規分娩處置ニ倣ヒ

消毒綿花瓦設ヲ貼シ丁字綑帶ヲ施スヲ以テ足ルト雖トモ損傷ノ大ナルモノハ醫治ニ托スヘシ

(218) 會陰破裂ノ症狀

比較的疼痛ヲ感セス僅カニ陰部ニ灼熱ヲ訴フルノミ又タ其損傷腔内ニ及ホスカ若クハ會陰ノ側方ニ破裂ヲ生セサレハ出血ナキモノトス此破裂ヲシテ縫合法ヲ施サス自然ニ放任スレハ終ニ陰門破裂哆開シテ膣加答兒子宮脱等ヲ發スルノ因トナルコトアリ第三度ノ裂傷則チ肛門括約筋ニ及ホセルモノニアリテハ傷内ノ瓦斯又ハ液性ノ糞便漏泄シテ大ニ患者ヲ苦マシムルモノナリ其他會陰破裂ノ爲メニ産褥熱ヲ誘

發シ産褥性潰瘍ヲ破裂部ニ發シテ創面ヲ増大シ終ニ大ナル組織ノ欠損ヲ遺スコトアリ

(219) 分娩時出血ノ原因

分娩時ノ出血ハ妊娠中ニ於ケル出血ヲモ此レニ加フルヲ適當トス如何トナレハ妊娠中ノ出血ノ爲メニ多ク分娩ヲ誘起スルモノナレハナリ其原因ハ左ノ如シ(1)妊娠中ニ併發スル婦人科的疾病則チ腔靜脈瘤ノ破裂、癌腫「ポリープ」等ニヨルモノ(2)子宮破剝及ヒ子宮翻轉(3)胎盤ノ早期無離(4)前置胎盤(5)分娩時ノ損傷(6)胎盤部ノ無力性出血等ナリ

分娩時出血原因(名古屋)
分娩時出血原因及ヒ急救處置(秋田)

(220) 胎盤早期剝離ノハ何ソ及ヒ其原因

胎盤ノ早期剝離トハ分娩ノ始メ若クハ尙ホ妊娠中ニ在リテ胎盤早ク剝離スルモノニシテ主トシテ母体ノ血管ヨリ出血シ而シテ未タ正規ノ分娩期ニ至ラスト雖トモ娩産ヲ誘發スルコト多キモノナリ

原因ハ外傷殊ニ身体ヲ劇シク震盪シ又タ子宮内膜炎妊娠性腎臟炎若シクハ分娩時ニ胎胞ノ久シク破開セサルキニ發ス

(122) 内出血ト外出血トノ區別

内出血トハ子宮壁ト剝離セル胎盤及ヒ卵膜トノ間ニ血液ノ滯溜スルモノニシテ母體ニ於テハ血液外部ニ顯ハレサルモ劇シキ貧血ヲ起ス則チ出血ニヨリテ下腹内ニ卒然疼痛ヲ發

シ子宮内ニハ劇シキ緊張ヲ感シ子宮ハ其形増大シ若クハ變形シ母體ハ脈細小頻數トナリ四肢厥冷人事不省等ノ急性貧血徵ヲ發シテ遂ニ死ニ至ルコトアリ、胎兒ハ血液ヲ失フコト多カラスト雖トモ胎盤ノ物質交換妨ケラル、ヲ以テ死ヲ致ス但シ内出血ト雖トモ其幾分ハ外陰部ニ流出スヘシ
 外出血トハ剝離セル胎盤部ヨリ子宮壁ト卵膜ノ間ヲ通過シテ子宮内ニ滲溜スルコトナリ、腔外ニ流泄スルモノヲ云フ蓋シ貧血症狀及ヒ胎兒ノ危險ニ陥ル等ハ内出血ト異ナルコトナシ

(222)

胎盤早期剝離ノ處置

内外出血ニ就テハ患婦ヲ安靜ニシ下腹ニ氷罨法ヲ貼シ外出血ニハ腔内栓塞法ヲ施シ速ニ産科醫ヲ托スヘシ又タ分娩ニ際シ胎胞久シク破開セスシテ往々外陰部ニ現ハレ爲メニ出血スルコトアリ是レ子宮壁ハ収縮スルモ胎盤収縮セサルニヨリ爲メニ剝離ヲ生スルニ基ツク此ノ如キ場合ニハ胎胞ヲ破開スヘキモノトス

(223)

前置胎盤ノ種類及原因

前置胎盤トハ胎盤ノ子宮ノ下部ニ附着スルモノニシテ之レヲ三種ニ區別ス
 (1) 全前置胎盤 (2) 邊緣前置胎盤 (3) 側前置胎盤

前置胎盤ノ種類ニ依リテニ症狀ヲ記セ
 (仙臺)

前置胎盤トハ如何
 (東京)

原因多クハ子宮内膜炎ニシテ急速ニ屢々妊娠スルモノニ發ス前置胎盤ハ凡ソ千五百ノ分娩中一回アリトス

(224) 前置胎盤ノ出血スル理由

子宮口ヨリ上方六仙迷ニ當ル部ノ周廻直經十一仙迷アリ所謂茲ハ収縮輪ノ部位ニシテ此部位ヨリ上方子宮底ニ至ルマテハ陣痛ノ爲メニ子宮壁ハ常ニ収縮ス雖トモ此部分以下子宮口ニ至ルマテハ分娩ヲ促スノ際其直經縱經共ニ延張作用ヲ營ムモノトス故ニ胎盤ノ幾部分ト雖トモ此ノ収縮輪以下ニ附着スルトキハ則チ前置胎盤ニシテ妊娠末期若クハ分娩ニ際シ子宮壁延張ニ伴ヘ胎盤ハ共ニ延張シ能ハサルヲ以テ

茲ニ剝離ヲ生シテ出血ヲ來スモノナリトス

(225) 前置胎盤ノ診斷

前置胎盤ノ診斷(新湯)

妊娠中又ハ分娩ノ前期ニ於テ靜脈瘤「ポリプ」癌腫等ノ存セサルニ當リ異常ノ出血ヲ致スモノハ早期剝離若クハ前置胎盤ニ基クモノトス而シテ前置胎盤ニアリテハ其腔部甚タ柔軟ニシテ餅ノ如ク且ツ大ナルヲ特異トス且ツ胎兒ノ前進部ト子宮下部トノ間ニ胎盤ノ存スルカタメニ胎兒ノ前進部ヲ觸知シ得サルモノトス子宮口已ニ開大スル後チ指ヲ子宮内ニ挿入スレハ直チニ胎盤ノ不平面ニ觸レ或ハ子宮口ノ側方ニ此レヲ觸ルヘシ但シ胎盤ノ不平面ハ時トシテ子宮口内カ

凝血ト誤ルコトアルモ凝血ハ甚ク軟カニシテ且ツ容易ニ破
碎シ得ルヲ以テ區別スヘシ

(226) 前置胎盤ノ徵候

妊娠ノ終リ三ヶ月ニ於ケル出血ノ原因及ヒ徵候 (東京)

(1) 前置胎盤ハ分娩ニ際シ夥シキ出血ヲ發スルカ故ニ最モ危
險ナリトス而シテ出血スル所以ハ妊娠ノ末期二三ヶ月ニ於
テ卵ノ増大ニヨリ子宮下部ハ強ク延張セララル、ニ際シ胎盤
獨リ延張シ能ハサルカ故ニ終ニ胎盤ノ一部剝離シ母體胎盤
ノ血管哆開シ此部ヨリ劇シク出血スルモノナリ

(2) 全前置胎盤及ヒ邊緣前置胎盤モ同シク妊娠ノ末期ニ原因
ナクシテ不意ニ子宮出血ヲ發シ時トシテ睡眠中ニ出血スル

コトアリ而シテ數日若クハ數週ヲ距テ再ヒ出血シ數回反覆
シテ遂ニ分娩期ニ達ス分娩時ノ出血ハ殊ニ劇シク産婦爲メ
ニ往々絶脈シ終ニ死亡スルコトアリ胎盤ハ胎兒ノ産出ニ先
タチテ其一部子宮口ヲ出テ若クハ全部脱出スルコトアリ特
ニ全前置胎盤ノ出血ハ全ク分娩ヲ終ルニアラサレハ閉止セ
サルモノトス

(3) 側前置胎盤ハ前者ニ比スレハ出血スルモ稍ヤ少量ナリ且
ツ胎胞破開スルニ至レハ兒頭ノ壓迫ニヨリテ止血スルモノ
トス

(227) 前置胎盤ノ處置

妊娠ノ危險
症ニ對シテ
處置
(大阪)

前置胎盤ハ最モ危險ナルカ故ニ速ニ産科醫ヲ托スヘシ己ニ
出血ヲ現ハセルモノニアリテハ冷石炭酸水ノ腔内灌注法ヲ
施シ消毒綿花ヲ以テ腔内栓塞法ヲ行ヒ安靜ナラシムヘシ栓
塞法ヲ施ストキハ壓迫ニヨリ止血スルト刺戟ニヨリ陣痛ヲ
催進シテ子宮口ヲ開大セシムルトノ効アリ子宮口已ニ開大
シ側前置胎盤ナルヲ知ラハ人工胎胞破開法ヲ施スヲ良トス
或ハ邊縁前置胎盤若シクハ全前置胎盤ニシテ子宮口開大シ
出血甚タシク産婦危險ニ陥ラントスル危急ノ際ハ防腐セル
手ヲ子宮内ニ送り卵膜若クハ胎盤ヲ穿開シ内回轉術ヲ施シ
胎兒ノ一足ヲ握リ強ク之レヲ牽下シ其大腿若クハ臀部ヲシ
テ剝離部ヲ壓迫セシメ以テ止血セシムヘシ而シテ子宮口全

ク開大セルモノハ挽出術ヲ施スヘシ分娩全ク終ラハ止血ス
ルヲ常トス出血ノ爲メ貧血症ヲ發シタルトキハ興奮劑ヲ與
ヒ身体ヲ温ムル等一般貧血ノ處置ニ倣フヘレ

(228)

前置胎盤ニシテ卵膜ヲ破開

スヘキ場合

子宮口已ニ開大シ子宮内口上ニ卵膜ヲ觸知シ且ツ側前置胎
盤ナルヲ知ラハ卵膜ヲ穿刺スヘシ但シ子宮口未タ手拳大ニ
開大セス且ツ陣痛強カラサルカ若クハ臍帶脱アルトキハ之
レヲ穿刺スヘカラス而シテ卵膜ヲ破ルニハ指尖ヲ突入シテ
足ルヘシト雖トモ若シ能ハサレハ「カテ」ノ鐵線ヲ挿入

シ陣痛ニ乗シテ此レヲ穿刺スヘシ此ノ如ク卵膜ヲ破ルトキハ多少胎盤ノ剝離ヲ防キ胎兒ノ體部先進シテ出血部ヲ壓スルカ故ニ止血スルモノナリ只妄リニ穿刺法ヲ施サ、ルヲ良トス若シ臀位若シクハ足位ナルトキハ其一足ヲ把リテ外陰部ニマテ牽出セハ胎兒臀部出血部ヲ壓シテ確實ニ止血スルヲ常トス

(229) 胎盤ノ産出遅延スル原因

(1) 子宮口ノ痙攣性収縮ニ由ルモノ (2) 後産期陣痛ノ微弱ナルニヨルモノ (3) 胎盤ノ癒着ニヨルモノ

(230) 子宮頸ノ痙攣ニヨル胎盤産出遅延ノ處置

後産々出遅延スル場合及ヒ其處置 (高田)

此症ニアリテハ子宮善ク収縮スルモ後産娩出セス甚シキ痙攣性ノ疼痛ヲ訴ヘ内診スレハ子宮口ハ狭小トナリテ一指ヲモ通セサルニ至ル
處置 (1) 産婦ヲ安靜ニシ温暖ナル乳汁若クハ温湯ヲ與ヘ出血ヲ呈スルモノハ栓塞法ヲ行フヘシ若シ子宮弛緩スルトキハ摩擦法ヲ行フヘシト雖トモ否ラサレハ施スヘカラス如此シテ二三十分ヲ經過セハ少許ノ壓出ニヨリ自ラ後産ヲ排出セシメ得ルコトアリ

(2) 甚シク出血ヲ伴フトキハ胎盤ノ剝離法ヲ行フヘシ則チ防腐法ヲ行ヘタル手ヲ腔内ニ送入シ初メ一二指ヲ子宮口内ニ送り漸次擴張セシメ除々ニ全手ヲ挿入シ胎盤ノ上縁ヨリ法ノ如ク剝離シテ抽出スヘシ此際後産殘片ヲ遺サ、ル様注意スヘシ後産全ク除去セルトキハ三、%石炭酸水ヲ以テ子宮腔内ニ灌注シ若シ子宮弛緩シテ出血セハ攝氏五十度ノ熱石炭酸水ヲ用フヘシ

(231) 陣痛微弱ニヨル後産産出遅延ノ處置

陣痛微弱ニシテ胎盤剝離セスシテ産出セサルトキハ子宮ヲ摩擦シテ其收縮ヲ促カシ且ツ胎盤ノ壓出法ヲ行ヒ數回反覆

胎盤ノ人工剝離ニ就テ (大阪)

此レヲ施スモ尙ホ胎盤娩出セサルトキハ消毒セル手ヲ以テ内診スヘシ則チ一手ヲ以テ適度ニ臍帶ヲ牽引シテ之レヲ緊張セシメ其臍帶ニ沿フテ一手ヲ産道口ニ進ムルヲ要ス陣痛微弱ニシテ胎盤産出セサルハ子宮口廣ク開キテ胎盤ノ一部ハ子宮口内ニ挺出セルヲ見ルヘシ如此子宮ノ摩擦、壓出法等ヲ試ムルモ娩出セサルトキハ人工胎盤剝離法ヲ施スヘシ

(232) 人工胎盤剝離法

産婦ヲ仰臥セシメ可及的其兩脚ヲ開カシメ外陰部及手ハ法ノ如ク消毒シ一手ヲ以テ臍帶ヲ適度ニ牽引シ之レニ沿フテ他手ヲ送入シ子宮口ヲ過キテ直ニ胎盤附着部ニ達セシム此

際外手ヲ子宮底部ニ移シ腹上ヨリ内手ニ向テ壓迫スルヲ要
 ス次テ内手ノ四指ヲ並列シ胎盤ノ已ニ剝離セル部ニ就キ注
 意シテ之レヲ剝離スヘシ此際子宮壁ヲ損傷セシムヘカラス
 或ハ指ヲ用ヘス掌側則チ小指側ヲ以テ剝離ヲ施ストキハ最
 モ良ナリ胎盤全部附着スルモノニアリテハ其上方ノ邊緣ヨ
 リ剝離スヘシ此ノ如クシテ剝離セル胎盤ハ之レヲ掌内ニ受
 ケ腔内ニ導キ來ルヘシ再ヒ其手ヲ子宮内ニ送り殘片ノ遺殘
 ナキヤヲ檢シ後産全ク除去シ終ラハ攝氏五十度ノ三%石炭
 酸水ヲ以テ子宮内ニ灌注シ且ツ子宮摩擦法ヲ併セ施スヘシ

(233) 胎盤癒着ノ症状

此症ハ陣痛微弱ニヨリテ胎盤産出遲延スルモノニ比スレハ
 頗ル稀レナリ其症状ハ陣痛微弱ト同一ナレ共時トシテ強劇
 ノ陣痛ヲ發シ子宮ハ明カニ收縮シテ硬固トナルモ甚シキ癒
 着ハ子宮壁ト密着シテ恰モ胎盤ノ存在セサルカ如キ觀ヲ呈
 スルコトアリ且ツ出血ナキニアラサルモ甚タ稀レナリ此レ
 子宮ノ収縮多クシテ胎盤ハ密接シテ剝離セサルニヨル又タ
 胎盤ヲ剝離スルコト頗ル困難ニシテ其一部ハ到底殘存スル
 ヲ免レス

(234) 急性貧血ノ症状

顔面口唇共ニ蒼白トナリ顔部及ヒ四肢ハ厥冷シ脈細小ニシ

急性貧血ノ
徴候(東京)
急性貧血ノ
症候及ヒ處
置(栃木)

テ其數百二十乃至百六十ニ達ス此ノ如キモノハ頗ル危険ナ
リ又々悪心嘔吐ヲ催シ耳鳴眼火閃發視力昏睡ヲ發シ時トシ
テ吃逆欠伸等腦貧血症ヲ呈スルモノアリ
更ニ重症ノモノハ甚シク渴ヲ訴ヘ且ツ煩悶シ頻リニ反側シ
床中ヨリ跳リ出テントスルニ至ル此ノ如ク不安ナルモノハ
極メテ危険ノ徴ナリトス爾後全身ノ厥冷漸ヤク増進シ顔面
冷汗ヲ流シ脈搏消失シ時トシテハ大聲ヲ發シテ呼ヒ精神全
ク昏睡シ呼吸淺表トナリ終ニ絶止ス心動ハ呼吸ニ後レテ休
止スヘシ又々將ニ死ニ陥ラントスルノ際痙攣ヲ發スルコト
アリ但シ生來強壯ノモノハ多量ノ出血ニ堪ユルモノナリ

(435) 急性貧血ノ處置

速カニ出血ノ原因ヲ處置シ患婦ノ頭部ヲ低クシ下體ヲ高ク
シ身体ヲ暖カニ包被シ且ツ液窩四肢ニ溫婆ヲ置キテ之レヲ
溫暖ナラシメ強烈ノ酒類、溫肉羹汁濃茄菲等ヲ與ヘ頭部胸部
ニハ溫奄法ヲ施シ務メテ葡萄酒鷄卵溫肉羹汁砂糖水等ヲ服
用セシメ體內水分ノ欠乏ヲ補フヘシ又々「ホフマン」液十五滴
ヲ砂糖水若クハ冷水ニ和シ毎五分乃至十分時毎ニ服用セシ
メ精神昏睡セルモノニハ礮砂精ノ嗅引法ヲ行フヘシ瀛瀛部
ニハ香水若クハ酢ヲ塗布スヘシ又食鹽水一〇〇〇〇ヲ體溫
度ニ溫メ皮下注射對若クハ灌腸スヘシ此液血中ニ吸收セラレ

トキハ血量ノ欠乏ヲ補フノ効アリトス。八%ノ食塩溶液ハ人體血液ノ鹽類含量ト殆ント同一ナルヲ以テ此レヲ注射スルモ毫モ組織ヲ刺戟スルコトナシ故ニ之レヲ生理的食鹽水ト云フ

(236) 子癇トハ何ンソ

妊婦、産婦、産褥婦ニ發スル痙攣性發作ヲ發スル處ノ病ニシテ其狀甚ク癲癇ニ似タリ而シテ腎臟病ニヨリ全身ニ浮腫ヲ發シタルモノニ罹ルヲ常トス時トシテ羊膜水腫ヲ兼スルコトアリ此症ハ五百回ノ分娩中凡ソ一回アリト云フ且ツ分娩中ニ之レヲ發スルモノ最モ多シトス

子宮ノ症狀
ヲ記セ
(仙臺)

(237) 子癇ノ症狀

頭痛不快惡心嘔吐等ノ前徵アリテ發作シ或ハ卒然發スルコトアリ而シテ已ニ發作スルトキハ眼ハ直視旋轉シ口圍攣縮シ次テ上肢軀幹下肢ノ筋肉ニ痙攣ヲ及ホシ項部多クハ強直シ劇シク身体ヲ動搖シ精神ハ常ニ昏睡ス此ノ如ク痙攣ノ最モ強キ時期ニ至レハ呼吸一時停止シ顔面蒼白トナリ口内ヨリ泡沫及血液ヲ漏出ス此ノ血液ハ顎ノ痙攣性運動ニヨリ舌ノ損傷ニ基ク次テ痙攣漸ヤク緩解シ呼吸回復シ肝聲ヲ放チ精神ハ暫時ノ後テ漸次ニ回復ス但シ發作時ノ事項ハ毫モ記憶スルコトナシ而シテ此ノ發作ハ多ク陣痛時ニ現ハレ一發作

ノ時間ハ十乃至六十秒ナリ此ノ如クシテ數分若クハ一二時間ノ後チ再ヒ發作シ其緩解ノ時間短カキモノハ精神全ク醒覺スルコトナク發作全ク止ムト雖トモ數日間精神朦朧トナルモノアリ發作ノ回數ハ甚タ不定ニシテ少ナキハ一回多キハ五十回ニ涉リ分娩終リテ止ムモノアリ然レトモ産褥中ニ至リ再發スルコトアリ病勢ハ發作ノ數ニ從フテ加ハリ其強劇ナルハ分娩中ニ死亡スルモ産褥ニ至リテ死スルヲ最も多シトス分娩ハ發作ノ爲メニ障害ヲ蒙ルコトナク却テ催進セシムルコトアリ妊娠中ニ發作スルモノハ爲メニ陣痛ヲ喚起シテ分娩ヲ催スコトアリ

(238) 子痛ノ處置

子宮發作時
ノ症狀及其
處置ヲ記セ
(原島)

- (1) 上肢顔面等ニ浮腫ヲ發シタル婦人ハ子痛ヲ起スノ恐レアルヲ以テ速ニ醫治ヲ乞ヘシムヘシ
- (2) 發作時ハ頭部及四肢ヲ他物ニ衝突シ又ハ床上ヨリ墜落スルコトアルカ故ニ之ヲ支持スルヲ要ス但シ強力ヲ用キテ其學縮ヲ抑制スルカ如キハ不可ナリ而シテ舌ヲ損傷スルコトアルカ故ニ木箸若クハ小桿ニ布片ヲ縋キ齒間ニ挿ムヘシ
- (3) 發作後ハ頭部ニ冷菴法ヲ施シ飲料ハ寒冷ナルモノヲ與ヘ内檢査ハ妄リニ行フヘカラス浮腫ノ甚シキモノハ大ナル

布片ヲ熱湯ニ浸シ之レヲ絞縮シテ頸ヨリ膝ニ至ルマテ之
レヲ被覆シ且ツ溫暖ナラシメ或ハ「カミツレ」浸ヲ服用セシ
メテ發汗セシムヘシ

(4) 小兒ノ娩出頭蓋位ニシテ深ク骨盤内ニ下降シタルトキハ
後會陰壓出法ヲ行ヒ骨盤端位ニ於テハ二時間以上ニ及フ
モ分娩セサルトキハ挽出術ヲ施スヘシ但シ子宮口開大セ
サルトキハ固ヨリ此レヲ行フヘカラス

(5) 後産期ニ於テ甚シキ出血アルニアラサレハ子宮ノ摩擦法
ヲ行フヘカラス又タ胎盤若シ三十分以上經過スルモ排出
セサレハ之レヲ壓出スヘシ

産婦死亡ノ
原因ヲ記セ
(東京)

(239) 産婦死亡ノ原因

急性貧血、子宮破裂、子癇、急性傳染病、心肺ノ疾患、子宮靜脈内空
氣ノ竄入ニヨリテ死亡ヲ致スヘシ
産婦卒カニ死亡スルモ健全ナル胎兒ハ尙ホ大凡五分間ハ生
存スヘシ故ニ此ノ如ク急劇ノ場合ハ醫師ノ來ルヲ待タズ、子
宮口開大シアラハ産婆ハ内回轉術若クハ挽出術ヲ施シテ小
兒ヲ救フヘシ

第三章 (丙) 異常産褥及其取扱法

(240) 後陣痛過劇ノ原因及ヒ徵候

原因。後産期ニ於テ凝血、卵膜、胎盤片ノ子宮内ニ殘存スルカ
若クハ經産婦ニシテ分娩容易ク分娩時ノ陣痛少ナキモノニ
此レヲ發ス

徵候。十分乃至三十分時ヲ隔テ、後陣痛ヲ發シ其疼痛ハ腹
部ヨリ陰部大腿ニ波及シ時トシテ強劇ニシテ睡眠ヲ爲シ得
サルコトアリ此後陣痛過劇ハ多クハ二三日ニシテ停止スヘ
キモ稀レニ五六日間ニ渉ルコトアリ

(241) 後陣痛過劇ノ處置

先ツ子宮内ニ卵膜、胎盤ノ殘片、凝血等ヲキヤヲ檢シ若シ此ノ
如キ異物殘存セハ醫師ニ托スヘシ單純ノ後陣痛過劇ニ在リ

ヲハ小兒ニ哺乳セシムルトキハ哺乳ノ刺戟子宮ニ反射シテ
其収縮ヲ促カスモノナリ其甚シキモノハ下腹部ニ氷菴法ヲ
貼シ第四日ニ至ラハ冷菴法ニ換ヘ兼テ加密列花ヲ茶劑トシ
テ之レヲ服用セシムルトキハ神經機能ヲ鎮靜シ疼痛緩解ス
ルモノナリ若シ疼痛尙ホ甚シク睡眠ヲ妨ケ熱ヲ兼發スルカ
如キコトアラハ醫治ニ托スヘシ

(242) 子宮回復不全ニ就テ

多産婦ニシテ双胎早産或ハ重症ノ出血アルモノ殊ニ小兒ニ
授乳セサル場合又ハ必要ノ安靜ヲ欠キ早期ニ離床シ或ハ運
動ヲナスモノ其他便秘ノ持續及ヒ胎盤片ノ殘存セルモノ等

産後子宮回
復不全ノ徵
候及ヒ其處
置 (新編)

子宮ノ復舊不全トハ如何(岡山)
子宮倒復不全ノ原因症ヲ記セ(仙臺)

ニ之レヲ發ス然ルトキハ子宮ハ尙ホ異常ノ高處ニアリテ其壁柔軟ニシテ弛緩シ惡露ノ量多クシテ第二週ニ至ルモ尙ホ血液ヲ交ヘ時トシテ純血ヲ漏ラスコトアリ處置ハ安靜ヲ要ス則チ臥床ニアラシメテ醫師ニ托スヘシ

(243)

惡露ノ過早閉止ハ如何ナル

障害アルヤ

惡露ハ速カニ閉止スルモ褥婦ノ爽快ヲ感スルモノハ少シモ害アルモノニアラス然レトモ若シ此レト同時ニ下腹ニ疼痛ヲ訴ヘ熱ヲ發シ且ツ口渴アルモノハ産褥性熱性病ヲ發スルノ疑アルヲ以テ醫治ヲ乞ハシムヘシ

(244)

惡露ノ臭氣アルモノハ如何

惡露ニ變狀ヲ呈セル場合(長岡)
不良惡露トハ如何(名古屋)

産褥ノ第三四日ニシテ惡露ニ臭氣ヲ發スルコト稀レナラス此際体温ヲ檢シテ三十八度以上ノ熱アルトキハ速ニ醫師ヲ招クヘシ之レ産褥熱ノ徵候ナレハナリ而シテ腔内ハ石炭酸水ヲ以テ洗滌スヘシ此レニ使用シタル「イルリガートル」ノ管及器械ハ石鹼ト刷毛トヲ以テ能ク洗滌シタル後五分間以上五%石炭酸水ニ浸シテ消毒スヘシ否ラサレハ之レヲ他ニ使用スヘカラス

(245)

産褥中ノ子宮出血ニ就テ

分娩直後ノ出血ハ後陣痛微弱ニヨル弛緩性出血ナリ而シテ

産褥中出血ノ原因及ヒヒ症狀(東京)

產褥中子宮
出血ノ原因
(仙臺)

產褥中ニ於テ子宮出血ヲ來スヘキ重ナル原因ハ胎盤及ヒ卵
膜ノ殘片子宮内ニ殘留スルニヨリ來ルモノナリ而シテ其殘
片大ナレハ出血愈多ク且ツ其發スルコトモ亦タ早シ稀レニ
ハ子宮後屈症ニ於テ產褥第三四週ニ出血ヲ初メ長ク持續ス
ルコトアリ又タ子宮炎ノ經過中ニ於テ大出血スルコトアリ
其他產褥中過早勞働膀胱直腸ノ充盈精神感動等モ出血ノ原
因トナルコトアリ

(246) 產褥婦ノ便通異常

分娩後數日間便秘スルヲ常トス然レトモ時トシテ分娩前ヨ
リ糞便直腸内ニ停滯シ產褥ニ入りテ尙ホ甚シク秘結スルコ

トアリ然ルトキハ腹部膨滿疼痛ヲ發シ且ツ少シク体温上昇
シ恰モ產褥熱ノ初期ニ於ケルカ如キコトアリ時トシテ硬便
腸内ニ滯積シテ通利セス其刺戟ノ爲メニ腸加答兒ヲ發シ頻
回少量ノ水様粘液便ヲ漏泄スルコトアリ又タ產褥中ニ於テ
下痢症ヲ發スルコトアリ

(247) 尿瘻トハ如何及ヒ其處置

產褥ニ於テハ最モ緊要ナルモノニシテ膀胱又ハ尿道ト腔若
クハ子宮トノ間ニ瘻孔ヲ生シ是レヨリ絶ヘス尿ノ漏泄スル
病ヲ云フ其瘻孔ノ所在ニヨリ膀胱子宮瘻、膀胱腔瘻、尿道腔瘻
等ノ別アリ特ニ膀胱腔瘻ヲ最モ多シトス其原因ハ狹窄骨盤

過大胎兒等ノ爲メ産道ヲ過度ニ壓迫スルニヨリ組織ノ壞死
 スルニ因ルモノニシテ産褥ノ始メ二三日間ハ尿閉若クハ排
 尿時ノ緊痛ヲ現ハシ次テ壞死セル組織ハ破壞シテ孔穴ヲ作
 リ尿ハ絶ヘス腔内ニ向テ流出シ尿道ヨリハ排泄セサルニ至
 ルモノナリ尿瘻ヲ生シタルトキハ尿ノ刺戟ニヨリ陰部糜爛
 シ甚シキ臭氣ヲ放ツモノナリ
 處置ハ外陰部ヲ清潔ニシ産褥後ハ醫師ノ手術ヲ施サ、ルヘ
 カラス

(248) 膀胱加答兒

此症ハ通常不潔ノ「カプーテル」ヲ使用スルニヨリテ發ス其症

狀ハ尿利頻數耻骨縫際上部ノ疼痛排尿時ノ劇痛等ニシテ尿
 ハ初メ雲片狀物ヲ混シ後チ膿様ニ混濁ス其甚シキモノハ血
 尿ヲ泄ラスコトアリ處置ハ刺戟ナキ食物ヲ與フヘシ則チ鹹
 味強キモノ辛辣ナナルモノ酒類等刺戟アルモノヲ禁シ膀胱
 部ニハ濕布褌法ヲ施スヘシ

(249) 下肢靜脉ノ血塞

此ノ症ハ骨盤内靜脉ノ血塞ニ續發シ若クハ運動ヲ營マサル
 ニ因テ稀レニ之レヲ發スルコトアリ主ニ下肢内側ノ靜脉ニ
 現ハル症狀ハ疼痛、麻痺、浮腫、等ニシテ産褥第一週以後ニ發シ
 多クハ數日ニシテ治癒スルモ稀レニハ其血塞片破壞シテ血

液中ニ混シ大静脈ヨリ心臟ヲ經テ更ニ肺動脈ニ入り其分枝ニ達シテ茲ニ血管ヲ閉塞スルコトアリ之レヲ肺動脈ノ血栓ト云フ甚タ恐ルヘキ病ニシテ此レヲ生スルトキハ肺ノ血行障害セラレ瓦斯ノ交換不良トナリ患者遽カニ呼吸困難ヲ起シ甚シキ苦悶ヲ訴エ遂ニ精神昏睡シテ死亡スルモノナリ

(250) 乳汁分泌ノ異常

乳汁分泌ノ異常ニ二種アリ則チ乳汁ノ過泄及ヒ乳汁漏是レナリ甲ハ乳汁多量ニ分泌シテ絶ヘス流出スル症ニシテ乙ハ授乳ヲ廢セシ後多量ニ稀薄ナル乳汁ノ久シク分泌スルモノヲ云フ此レ等ノ病ハ共ニ其婦人ヲシテ甚タシク衰弱ニ陥ラ

乳頭損傷及
ヒ炎症ノ原
因並ニ豫防
法 (東京)

シムヘシ則チ患婦ハ慢性貧血ヲ致シ顔貌蒼白、身体羸瘦、劇甚ノ腰痛、食思欠損、足脚振顫、視力衰弱等ヲ現ハスヘシ處置ハ授乳ヲ廢スルコトナクシテ乳房ニハ繃帶ヲ施シ滋養物ヲ與ヘ便通ヲ佳良ナラシムヘシ

(251) 乳頭損傷ノ原因及徴候

原因○乳頭ノ損傷ハ皮膚薄弱ナル上流ノ婦人ニ發スルコト多ク特ニ初産婦ニ多シ田舎ノ婦人ハ常ニ粗糙ノ衣類ヲ用ヘテ乳頭ヲ摩擦シ皮膚ヲ強固ナラシムルカ故ニ損傷スルコト少ナシ又タ乳頭ヲ不潔ニシ表皮ヲ濕潤シテ脆弱ナラシムルカ不規則ニ授乳シテ乳頭ヲ刺戟スルコト多キニヨリテ此レヲ

乳腺炎ノ原因及處置 (仙臺)

テ其微菌ハ小兒ノ口ヨリ傳ハリ若クハ褥婦或ハ産婆ノ手ヲ經テ惡露ノ乳房ニ附着シ此際乳頭ニ損傷アルトキハ此レヨリ侵入シ腺間ノ結締織若クハ輸乳管ヲ經テ乳腺ニ入り繁殖ス特ニ輸乳管ニ閉塞アルトキハ微菌閉塞管内ノ内容物中ニ繁殖シ漸次ニ深部ニ進入スルカ故ニ最モ乳腺炎ヲ發シ易キモノナリ

(254) 乳腺炎ノ徵候及ヒ處置

惡寒發熱シ乳房ニ甚シク疼痛ヲ感シ觸診スレハ硬固ニシテ疼痛アル結節ヲ觸ルヘシ又腋窩ノ水脈腺モ腫脹シ同側ノ上肢ヲ上下スルニ困難ナルコトアリ此ノ如ク腫脹疼痛發熱シ

褥婦ト發スル主ナル疾病ノ名稱及豫防法 (東京)

テ二三日ニ至リ消退スルコトナケレハ終ニ化膿ニ陥リ多クノ腺胞荒蕪スルニ至レハ全ク乳汁ノ分泌ヲ廢スコトアリ處置 乳腺炎ヲ發スルノ恐レアラハ先ツ豫防法トシテ乳頭ヲ清潔ニシ不潔ノ手若クハ物品ヲ觸レシムヘカラス乳頭ニ損傷アラハ適當ノ治法ヲ施シ己ニ炎症ヲ發セハ小兒ニ哺乳ヲ禁シ乳房ヲ綳帶舉上シ冷奄法ヲ行ヘ便通ヲ佳良ナラシメテ其化膿ヲ防クヘシ其他ハ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘシ

(255) 産褥性熱性病ノ病理

産褥中ノ熱性病ハ分娩後一乃至數日ニシテ發スル處ノ病ニシテ其輕重種々アリト雖トモ産婆ニ於テ必要ナルハ左ノ二

褥婦ニ對シ
最モ恐ルベ
キ病患ノ名
稱及ヒ豫防
法(神奈川)

症ニ過キサルヘシ

(1) 創傷熱 吸収熱 此病ハ子宮頸、腔内又ハ外陰部ニ新鮮ナル創傷ノ存セルニ當リ産道内ニ於テ腐敗微菌ヨリ生スル分解産物ヲ其創面ヨリ吸収シ此レカ血中ニ達シテ熱候ヲ現ハスモノナリ

(2) 産褥熱 微菌ハ直接創面ニ付着シテ茲ニ發育繁殖シ此レヨリ更ニ深部ノ組織ニ微菌ノ侵入スルモノナリ則チ子宮内膜或ハ子宮實質或ハ扁韌帶或ハ子宮外膜若クハ全腹膜淋巴管血管等ニ侵入散蔓シテ此等ノ機關ニ炎症若クハ化膿ヲ發シ微菌ノ毒質終ニハ血液中ニ混シテ甚タ危険ナル熱症ヲ發スル處ノモノナリ

産褥熱ノ原
因及ヒ微候
(仙臺)
(秋田)

(256) 産褥性熱性病ノ原因

毒性アル微菌ニヨルモノニシテ間々手、器械、臥具、諸種ノ布片等ニ彼ノ微菌付着シ此等ノ諸物陰部ノ創傷ニ觸ル、ニヨリテ傳染シ漸次ニ繁殖シテ遂ニ各種ノ病變ヲ現ハスモノナリ又夕時トシテ内診、交接、タンポン等ニヨリテ送入セラレテ豫メ産道内ニ潜在スルコトアリ茲ニ創傷生スルニ及ヒ直ニ繁殖シテ發病スルコトアリ

(257) 吸収熱トハ如何

此熱ハ分娩後二三日ニシテ現ハレ同時ニ乳汁分泌スルカ故

吸収熱ト産
褥熱トノ區
別(仙臺)

ニ昔時ハ之レヲ乳熱ト名ツケタリ則チ始メ軽度ノ惡寒ヲ伴
 フテ發熱シ熱ハ輕キモノ多シト雖トモ時トシテ三十九度以
 上ニ達スルコトアリ然レトモ脈ハ百次以下ナリトス腹部ハ
 柔軟ニシテ子宮及ヒ扁韌帶等ノ部位ニ疼痛等ナシ外陰部ヲ
 檢スルニ創面ハ間々黄色ノ被覆物ヲ被ムリ惡露モ又屢々臭
 氣ヲ發スルコトアリ褥婦ノ全身狀態ハ殆ント佳良ニシテ食
 飼減スルコトナク唯々渴ヲ訴フルノミ此症ハ二三日ニシテ
 治癒スヘシ

○處置 危險ノモノニアラサルモ醫師ニ托シ膈内外陰部ノ洗
 滌ヲ行ヒ之レニ用ヘタル器具ハ消毒スヘシ

(258)

産褥熱ノ徵候

産褥熱ノ徵候及ヒ該産婦ヲ申扱ヘタル産婆ノ消毒法(名古屋)

産褥熱ノ元即及豫防法(兵庫)

分娩後二三日ニシテ惡寒戰慄ヲ伴ヒ若クハ突然發熱シテ三
 十九乃至四十度ニ昇降シ頭痛、口渴、食慾欠損、身体倦怠等ノ熱
 徵ヲ現ハス其体温高カラスシテ脈ノ頻數ナルモノハ最モ危
 險ナリ而シテ通常始メニ顯ハル、モノハ傳染性子宮内膜炎
 ニシテ次テ子宮實質、扁韌帶等ニ炎症ヲ傳フルニ至レハ其部
 ニ壓痛アリ多クハ腸内ニ瓦斯蓄積シテ腹部膨脹ヲ致ス炎症
 腹膜ニ蔓延スレハ腹痛鼓脹便秘吐糞ノ症狀ヲ發シ又々膽汁
 ヲ吐出ス、惡露ハ減少シ乳汁分泌尿量モ亦共ニ減ス重症ノモ
 ノハ第一週ノ終リ若クハ第二週ノ始メニ於テ心臟麻痺ノ爲

トニ死ヲ致ス又屢々悪寒戰慄ヲ發スルモノハ恰モ間歇熱ノ如ク時トシテ一日數回發作スルコトアリ
此等ノ炎症ニヨリ骨盤内ニ化膿ヲ生スルトキハ時ヲ經テ膣内腸管内等ニ破開シテ治癒スルコトアリ其他心臟肺臟腦等ニ炎症ヲ續發スルコトアリ然ルトキハ最モ危險ノ度ヲ加フルモノナリ

(259) 産褥熱ノ處置

産褥熱ハ醫師ノ命ヲ俟ツニアラサレハ産婆自ラ處置スヘカラス又タ之レヲ處置スルニ當リ看護婦アラハ膣内ノ洗滌ハ彼レニ行ハセシムヘシ是レ産婆ノ手ヲ不潔ナラシメサルノ

益アリ若シ自ラ處置スル場合ハ手指ノ消毒ハ最モ嚴重ナルヲ要ス則チ三分間五、%ノ石炭酸水ニ其手指ヲ浸漬シテ消毒シ次テ全身浴ヲ行ヘ更ニ洗濯シタル衣服ヲ着換フヘシ此ノ如クセサレハ決シテ他ノ妊婦及ヒ産婦若クハ産褥ノ診斷ニ從フヘカラス

第四章 (丁) 初生兒疾患及ヒ其取扱法

(260) 初生兒疾患トハ何ソ

分娩時ノ障害、先天性、傳染病毒ノ感染ニヨリテ發スル處ノ病ニシテ分娩後二三日ニシテ發現スルモノナリ蓋シ初生兒期

間中ニ發スル疾患ハ産婆ノ注意ヲ拂フヘキモノトス

(261) 初生兒假死トハ何ンソ及ヒ其原因

假死トハ小兒産出シテ呼吸ヲ營マス且ツ自ラ身体ヲ運動スルヲ無ク注意シテ聽診スレハ幽微ノ心音ヲ聽取シ得ルノミ原因。小兒母體內ニ於テ瓦斯ノ交換ヲ障害セラル、ニヨリテ發スルモノ多シ則チ産出期ノ延長、臍帶ノ壓迫、胎盤ノ早期剝離等ナリ其他頭蓋ノ壓迫ヲ受クルカ小兒ノ失血ヲ致スニヨリテ此レヲ發スヘシ

初生兒假死ノ原因及産婆ノ處置
(東京)

(262) 初生兒假死ノ徵候

假死ノ輕症ナルハ幽微ナル呼吸ヲ營ム顔面ハ青紫色ニシテ腫起シ臍帶モ腫脹シテ僅カニ搏動ヲ觸レ四肢ハ全ク弛緩セサルヲ云フ重症ノモノニ至リテハ顔面蒼白色ニシテ瘦削シ四肢ハ柔軟ニシテ弛緩シ全身ノ皮膚蒼白トナリ口唇及ヒ肛門ハ哆開シ臍帶萎縮シ注意シテ聽診スレハ幽カニ心音ヲ聽クノミ若シ以上ノ變狀ヲ呈シテ心音全ク靜止シタルトキハ此レヲ真死ト云フ

初生兒假死ハ何ニヨリテ之ヲ豫防スルヤ及ヒ其原因
(高田)

初生兒假死ト眞死ノ區別
(仙臺)

(263) 初生兒假死ノ處置

假死症狀ノ輕重ニヨリ種々ナル處置ヲ施サ、ルヘカラス則チ

初生兒假死
ニ對スル處
置(名古屋)

假死兒ヲ蘇
生セシムル
方法如何
(東京)

假死セル初
生兒ノ蘇生
法(兵庫)

- (1) 假死ノ輕度ナルモノハ小指ニ布片ヲ捲キ之レヲ深ク口内ニ挿入シ咽頭及ヒ口腔内ノ粘液ヲ拭ヒ若シ咽腔内ニ深ク羊水、胎尿、血液等ノ異物アラハ「カテーテル」ヲ挿入シテ此レヲ吸去スヘシ次テ冷水ヲ顔面胸部ニ撒布シ又々臀部或ハ心窩部ヲ手掌ヲ以テ輕打スヘシ
- (2) 尙ホ効ナキトキハ先ツ臍帶ヲ結紮切斷スヘシ此際充血性ノ小兒ナラハ臍帶ヨリ十瓦乃至十五瓦ノ血液ヲ洩ラシタル後結紮スヘシ而シテ攝氏三十五度乃至三十八度ノ温浴ニ入ラシメ手掌若クハ「セラネル」ヲ以テ全身ノ皮膚ヲ摩擦シ羽毛ヲ以テ咽頭部ヲ刺戟シ胸腹部ニハ冷水ヲ澆注スヘシ或ハ冷水浴ト温浴トヲ反覆混用スルモ可ナリ

- (3) 此ノ如クスルモ尙ホ効ナキハ振搖法等種々ナル人工呼吸法ヲ試ムヘシ

(264) 氣管内「カテーテル」挿入法

假死セル小兒ノ咽頭内ニ羊水胎尿血液等ノ異物吸入セルトキハ人工呼吸法ヲ施ス前ニ於テ之レヲ除去セサルヘカラス此法ハ困難ナルヲ以テ多クハ醫師ニ托スヘキモノトス然レトモ危急ノ場合ハ産婆此レヲ行ハサルヘカラス其法先ツ護謨製彈力「カテーテル」ヲ撰ヒ産婆ノ示指ヲ小兒ノ口内深ク送入シ會厭軟骨ヲ後方ニ壓シ其後ヨリ「カテーテル」ヲ徐々ニ氣管内ニ挿入セハ其外端ヲ吸フヘシ然ルトキハ氣管ノ異物「カ

テ一テル内ニ吸入セラル異物除去シ終ラハ抜キ去ルヘシ

(265) シエルツエー氏振搖法

人工呼吸法トハ如何(仙臺)
 人工呼吸各種ノ方法(名古屋)
 シエルツエー氏ノ假死蘇生法(長野)

術者ハ兩脚ヲ開キテ起立シ兒体ヲ前方ニ向ケテ兩手ヲ以テ兒ノ兩肩ヲ握リ之レヲ懸垂ス次テ此レヲ高ク舉上シテ自己頭部ノ高サニ至ラシメ小兒ヲ倒ニシ而シテ後チ之レヲ下方ニ振下シ自己ノ足部ニ致シテ懸垂ノ元位置ニ復サシム此振搖法ヲ行フノ速度ハ三十秒時凡ソ七回ナドヘク之レヲ行フコト凡ソ十回ナルトキハ小兒ヲ温浴中ニ入レ蘇生セサレハ反覆前法ヲ施スヘシ此ノ如ク兒体舉上スレハ呼吸ヲナシ下方ニ振下スレハ吸氣ヲ營ムモノナリ

初生兒ニ對スル重惡ナル呼吸法ヲ記セ(新潟)

(266) 「プルヒョーニツク」氏ノ人工呼吸法

此法ハ兒足ヲ握リテ倒マニ懸垂シ一手ヲ以テ兒ノ胸部ヲ握リ一度ハ此レヲ壓縮シ一度ハ此レヲ緩ムヘシ此ノ如ク數回反覆之レヲ行ヘハ呼吸運動ヲ營ムモノナリ尙ホ屢々温浴ニ浴セシムヘシ此法ハ最モ簡短ニシテ且ハ氣管内ノ異物ハ自ラ流下シテ口外ニ漏出シ腦内ニ多量ノ血液ヲ送り蘇生シ易カラシム特ニ此法ハ臍帶ヲ切斷セサルモ施シ得ヘキ法ナリトス

(267) 假死セル者ノ蘇生セシ徵候

假死セル胎
兒蘇生時ノ
徴候(熊本)

小兒回生スレハ蒼白若クハ青赤色ノ顔色消退シ四肢ハ漸次ニ緊張シ口圍ニ弱キ蠕動ヲ現ハシ眼ヲ開キ四肢ヲ動搖シ初メ不正ノ呼吸ナルモ遂ニ啼泣スルニ至ル以上回生セハ温浴ニ入ラシメ尙ホ回生充分ナラサルトキハ再ヒ人工呼吸法ヲ施セハ高聲ニ啼泣シ活潑ニ呼吸スルニ至ルヘシ尙ホ種々ナル急救法ヲ施シテ効ナク心動全ク絶止スルモノト雖トモ温暖ニ被包シ置クヘシ稀レニハ人工呼吸法ヲ施シ効ナカリシ中ノモ後チニ至リテ蘇生スルコトアレハナリ

(268) 分娩時ニ生スル兒頭ノ變狀

初生兒疾病
ノ種類
(東京)

(1) 産瘤 分娩ノ際先進部ノ一部子宮口縁ノ爲メニ括約セラ

産瘤ト頭蓋
血腫ノ區別
(大坂)

ル、ニヨリ發スルモノニシテ頗ル腫脹シ時トシテハ甚シク青赤色トナリ其組織内ニ血漿浸潤シテ且ツ鬱血ヲナスモノアリ産瘤ハ二三日ニシテ消散スルモノナルモ時トシテ數日ヲ經ルモ消失セス却テ増大スルコトアリ然ルトキハ醫師ニ托スヘシ

(2) 頭蓋血腫 分娩時壓迫ヲ受クルニヨリ骨膜下ニ血管ノ破裂ヲ生シ血液ノ溢出ニヨルモノニシテ顛頂骨若クハ後頭骨上ニ生スルモ縫合若クハ顛門ヲ越ヘテ他骨ニ及ホスコトナシ其皮膚ハ通常ト異ナルモノニシテ波動ヲ呈ス此レヲ綑帶シテ保護セハ數日ニシテ消散スヘシ

(3) 頭部ノ變形 後頭位ニアリテ兒頭後方ニ延張シ前顛頂位

ニアリテハ兒頭ノ前後經短縮シ顔面位ハ縱横ニ壓縮セラレ其他ノ難産ニヨリテ種々ナル醜形ヲ呈シ時トシテ頭蓋骨ノ凹陷損傷ヲ伴フコトアリ其骨傷ナキモノハ二三日間ニシテ正位ニ復スヘシ

臍帶ノ疾患

(269)

- 臍帶ノ疾患 (仙臺)
- 臍帶疾患並ニ其處置 (柳木)
- (1) 臍部ノ糜爛 臍帶斷端脫落後臍窩ニ糜爛ヲ殘スコトアリ然ルトキハ石炭酸水ノ洗滌沃土ホルム若クハ硼酸末ヲ撒布シテ綳帶スヘシ
 - (2) 臍出血 若シ出血スルコトアラハ石炭酸水ニ浸シタル綿花ヲ以テ強ク壓抵シテ綳帶ヲ施スヘシ出血ノ強度ナルモ

初生兒臍帶病ヲ記セ (新海)

臍帶ニ欲衝ヲ發シタルトキハ如何ナル症狀ヲ發スルヤ其處置 (東京)

ノハ醫師ニ托スヘシ

(3) 臍脫腸 生來臍輪ノ廣キモノ若クハ劇シク啼泣シ或ハ努力ノ爲メニ此レヲ發ス然ルトキハ皮膚囊狀ニ膨出スルモノナリ處置ハ可及的啼泣セシムルコトナク綿花若クハ瓦設ヲ以テ壓抵シテ綳帶スヘシ又タ之レカ豫防法トシテハ便通ヲ佳良ナラシムヘシ

(270) 初生兒眼炎トハ如何及ヒ其原因

初生兒眼炎 又初生兒膿漏ト稱ス淋毒微菌ニヨリ發シ大人ニ於ケル膿漏性結膜炎ト同一ナルモ初生兒ニ於ケルモノハ大人ニ比スレハ症狀輕クシテ適當ノ治方ヲ施セハ稍ヤ佳良

初生兒眼炎ハ分娩後幾日ニシテ發スルヤ及ヒ其豫防法 (東京)

初生兒眼疾ノ原因及其豫防法 (神奈川)

ナルモノナリ
原因 分娩ノ際腔内ニ於テ淋毒性分泌物ノ傳染若クハ産褥中母体或ハ産婆ノ手ヨリ傳染スルニヨル此病ハ最モ多クシテ盲者トナルモノモ亦鮮カラス故ニ最モ注意ヲ要スキ病ナリトス

(271) 初生兒眼疾ノ症狀

分娩後第二日ニシテ一眼若クハ兩眼ノ眼縁赤色ヲ呈シテ上下相粘着シ以テ眼裂ヨリハ帶綠色ノ水樣液ヲ漏ラシ漸次膿性トナリ眼瞼ハ甚シク腫脹シテ球形ニ膨隆シ眼ヲ開ク能ハス眼球結膜ハ充血シ赤色トナリ病機角膜ニ及ホス時ハ治癒

初生兒眼疾ノ症狀ヲ記セ (仙遊)

ノ後ニ尙ホ白翳ヲ遺スコトアリ或ハ病狀増進シテ角膜ノ破壊穿孔ヲ致シ又一眼ニ發スルモノハ遂ニ他眼ニ傳ヘ或ハ他人ニ傳染セシムヘシ其重症ナルモノハ多クハ失明スルモノナリ

(272) 初生兒眼疾ノ豫防法及處置

小兒眼疾ノ豫防法 (熊本)

(1) 豫防法 産婦若シ陰部ヨリ膿樣ノ分泌物ヲ漏ラシ淋疾ノ疑ヘアラハ分娩前二、%石炭酸水ヲ以テ腔内ヲ洗滌シ小兒ハ分娩後二、%硝酸銀水ヲ兩眼ニ點滴スヘシ
(2) 處置 已ニ眼疾ヲ發シタルトキハ水片ヲ布片ニ包ミテ眼ニ卷法ヲ施シ速ニ眼科醫ニ托スヘシ分泌物ハ時ニ拭去スヘシ

シ其法術者ノ拇指ヲ横ニ眉ノ下ニ抵テ上眼瞼ヲ舉上シ藥液ヲ浸セル綿花ヲ以テ流出スル分泌物ヲ外眥ヨリ内眥ニ向テ拂拭シ次ニ示指ヲ以テ下眼瞼ヲ牽下シ同シク拭去スヘシ此ノ如ク處置シタル手指ハ消毒シ使用シタル綿花等ハ燒却シテ他人ニ傳染セシメサル様注意スヘシ

(273) 鼠蹊脱腸ト陰囊水腫トノ區別

(1) 脱腸 初生兒ハ先天性ニ鼠蹊部ノ腹壁ニ間隙アリテ之レヨリ腸管脱出シ男兒ハ陰囊内女兒ハ大陰唇内ニ膨隆ヲ生スルコトアリ此等ノ脱腸ハ啼泣スレハ著シク増大シ安靜又ハ壓迫ヲ加フレハ雷鳴ヲ發シテ腸管ハ腹腔内ニ還却スヘシ腸

鼠蹊脱腸ト陰囊水腫トノ區別 (神奈川)

管若シ茲ニ候頓スルトキハ劇痛吐糞症ヲ發シ甚シキハ腸管終ニ壞疽ニ陥リ生命ヲ失フモノナリ

(2) 陰囊水腫 男兒ニアリテハ先天性陰囊水腫ナルモノアリ脱腸ニ於ケルト同シク鼠蹊部ノ腹壁ニ間隙ヲ現ハシ其間隙小ナルトキハ腸管脱出セスシテ腹腔液ノミ流下シテ陰囊内ニ滯溜スヘシ其外觀恰モ脱腸ノ如キモ壓迫スルトキハ音ヲ發スルコトナクシテ内溶液徐々ニ腹腔内ニ還流スヘシ又々光線ニ對シ透見スレハ脱腸ト異ナリ透明ナルヘシ此レ脱腸ト區別シ易キ徴ナリトス

(274) 驚口瘡トハ何ソ及其原因

鵝口瘡ノ原因及ヒ豫防法(名古屋)

鵝口瘡ノ症狀及ヒ處置(長岡)

鵝口瘡ノ原因及ヒ處置(東京)

鵝口瘡ノ原因及ヒ處置(岡山)

鵝口瘡トハ口内舌上口唇等ニ細小ナル白色ノ班點ヲ生スルモノヲ云フ時トシテ口内粘膜殆ント全部侵サレテ白色トナリ餘地ヲ存セサルニ至ルコトアリ小兒ハ疼痛ノ爲メニ哺乳シ能ハサルニ至リ終ニハ生命ヲ危クスルコトアリ
原因 一種ノ微菌附着シテ繁殖スルニヨリテ發シ不潔ノ乳房又ハ不潔ノ授乳器、小兒ノ口内ヲ不潔ニスル等ニヨリテ發スルカ故ニ下等社會ノ小兒ニ多ク見ル處ノ病ナリトス

(275) 鵝口瘡ノ豫防及ヒ處置

豫防法 最モ緊要ナリトス則チ乳房ハ授乳ノ前後清水ヲ以テ清洗シ授乳器ナルトキハ使用後毎回必ス謾謾管及ヒ壘内

ハ清水ヲ浸セル瓦設ヲ以テ拭淨スヘシ又タ硼酸水ヲ浸シタル瓦設ヲ小指ニ捲キ小兒ノ口内粘膜舌、口唇ノ内面ヲ丁寧ニ拭淨スヘシ此際口内ヲ傷ケサル様注意スヘシ之レヲ拭淨スルニハ哺乳後少シク時間ヲ經タル後チニスヘシ否ラサレハ嘔吐ヲ發スルコトアリ己ニ鵝口瘡ヲ發セハ醫治ヲ乞ハシメ口内ヲ拭淨シタル布片等ハ燒却スヘシ

(276) 初生兒ノ嘔吐

小兒ノ胃ハ彎曲少ナク且ツ比較的ニ小ナルカ故ニ多量ノ乳汁ヲ攝ルトキハ容易ク嘔吐スヘシ例令嘔吐スルモ必スシモ害アルニアラス故ニ數回少量ツ、哺乳セシメ授乳後ハ安靜

初生兒嘔吐ノ原因及ヒ處置(名古屋)

ナラシムヘシ若シ嘔吐ニ兼テ下痢或ハ便秘スルモノハ醫師ニ托スヘシ但シ母體ニ脚氣症アルトキハ其毒質乳汁中ニ混在スルカ故ニ此レヲ哺乳スル小兒ニ傳染シ著シキ嘔乳ヲ發シ不穩羸瘦、聲音嘎嘶等ノ症ヲ起スコトアリ故ニ小兒吐乳スルトキハ必ス母體ニ脚氣症ナキヤヲ檢スヘシ

(277) 初生兒ノ下痢及ヒ便秘

初生兒ハ時トシテ水様粘液様ニシテ間々綠色或ハ白色不消化性ノ乾酪片ヲ交ヘ時ニ酸臭ヲ放ツ處ノ下痢ヲ發スルコトアリ此下痢ハ感冒若クハ濃厚ナル牛乳不適當ナル營養物ヲ與フルニヨルモノナレハ小兒ノ攝生ニ注意シ身体ヲ溫暖ナ

脚氣母乳ニ
因スル生乳
病的主徵
ヲ記シ人ニ
養法ヲ述
ヘヨ(東京)

ラシメ腹部ニ溫湯或ハ「カミツレ」浸ヲ以テ菴法ヲ施スヘシ
初生兒ハ時トシテ便秘スルコトアリ則チ二十四時間便通ナ
キトキハ屢々鼓腸ト腹痛トヲ發シ放屁スルモノナリ便秘ハ
主ニ濃厚ナル牛乳不適當ナル營養物ニヨリテ來ルモノナリ
此ノ如キ場合ハ砂糖水若クハ加密列煎ノ灌腸ヲ施ス生後一
週間ハ其量一五瓦ヲ以テ足ル牛乳ヲ以テ養フモノハ之レヲ
稀薄トシ母乳ナルトキハ其母ニ屢々稀薄ノ茶又ハ加密列煎
等ヲ服用セシメ運動ヲ營マシムヘシ

(278) 初生兒脚氣

原因 授乳者ノ血液中ニ存スル脚氣毒ハ乳汁中ニ混在スル

カ故ニ之レヲ哺乳スル小兒ハ其中毒ニ陥リ此病ヲ發スルモノトス時トシテ脚氣乳ヲ飲用セシムルモ傳染セサルコトアリ
 徵候 初生兒此症ヲ發スレハ一日數十回吐乳シ綠色便ヲ泄
 ラス聲音嘎嘶シ尿量減シ下肢水腫シ心動亢進呼吸頻數トナ
 リ苦悶呻吟若クハ斷エス啼泣シ口唇四肢ノ末端紫藍色ヲ呈
 シ此ノ如クニシテ脚氣性乳汁ヲ癢スルコト大ケレハ漸次症
 狀増進シテ遂ニ死ヲ致ス
 處置 此症ヲ發スレハ速ニ脚氣乳ヲ癢シ且ツ醫治ヲ乞フヘ
 シ

(279) 初生兒吃逆

横隔膜ノ痙攣ニヨリ發スル短小急速ナル吸氣ニシテ小兒ヲ
 冷却シ若クハ一頓ニ多量ノ乳汁ヲ攝ラシムルトキニ之レヲ
 發ス故ニ身体ヲ温保シ且ツ温暖ナル砂糖水若クハ砂糖ヲ舌
 上ニ撒布スルカ急劇ニ哺乳セシメサレハ治愈スルモノナリ

(280) 初生兒痙攣ト破傷風トハ如何

痙攣 眼球ヲ上制シ若クハ旋轉シ顔面ヲ變縮シ手ヲ握リ腹
 ル、カ如キ聲ヲ發シテ啼泣ス此症ハ熱症便秘鼓腸過熱ノ浴
 湯等ニヨリテ發ス

初生兒破傷風ハ臍部ニ損傷アリテ茲ニ「タタヌス」菌附着スル
 ニヨリテ發スルモノニシテ産出後第三日乃至十日ニ現ハシ

初メ口角學縮シ下顎ノ咀嚼筋痙攣シ口ヲ開クコト能ハス小兒ハ乳汁ヲ嫌忌シ授乳ヲ試ムルモ之レヲ避テ次テ全身痙攣シ甚シキハ軀幹後方ニ彎曲強直ス之レヲ後弓反張ト云フ體溫四十二三度ノ高キニ昇ルコトアリ此ノ如クシテ廿四時間ヲ出テス死ヲ致スモノナリ

(281) 初生兒黃胆トハ如何

初生兒黃胆ニ就テ(東京)
初生黃胆トハ何ソ(仙臺)

初生兒黃胆ノ病理 初生兒黃胆ハ大人ノ黃胆ト異ナル蓋シ大人ニ於ケルモノハ主ニ肝臟ノ疾患ニヨリ胆汁ノ排泄障害セラレ其胆汁血液中ニ吸収セラル、ニヨリテ發スルモノナレ共初生兒ニ在リテハ否ラス其初生兒ニ此レヲ發スルノ理

未タ明ナアラス或ハ之レヲ疾病ニアラスト云フ者アリ但シ疾病トスルモ極メテ輕症ニシテ治癒レ易ク小兒ノ生命ニ危険ヲ及ホスコトナシ

原因 虛弱ナルモノ特ニ未成熟兒梅毒性小兒臍ノ疾患アルモノ骨盤端位ニシテ分娩困難ナリシモノ看護不完全ニシテ身体ヲ冷却シ食餌ノ不良ナルモノ等ニ發シ時ニ原因ノ不明ナルモノアリ

症狀 産出後第二三日ニシテ發シ第六乃至第八日ニシテ消散ス稀レニハ二三週ニ涉ルコトアリ而シテ全身ノ皮膚眼球結膜黃色ニ變ス尿ハ通例着色セサルモノ多シ糞便ハ通常ノ色ヲ失ハス此レ胆汁ノ腸管内ニ流出スルノ徵ニシテ大人ノ

モノト異ナル所ナリ
處置^〇 他ニ異常ナキモノハ醫治ノ要ナシ身体ヲ温保シ屢々
入浴セシメテ血液ノ循環ト新陳代謝トヲ良ナラシメ食飼ニ
注意シ室内空氣ヲ清良ナラシムヘシ

(282) 早産兒ノ處置

早産兒ハ發育甚タ不充分ナルカ故ニ呼吸血行共ニ不良ニシ
テ且ツ身体モ小ナルモノナレハ容易ニ冷却シ易キヲ以テ第
一ニ身体ノ保温ニ注意スヘシ則チ一日數回温浴ヲナサシメ
テ暖カナル毛布「フランネル」若クハ真綿ニ包ミ周圍ニ温婆ヲ
置テ温暖ナラシメ又自ラ哺乳シ得サルトキハ小匙ヲ以テ飲

早産兒ノ看
護法(名古屋
屋、東京)

早産兒ノ處
置(仙臺)

早産兒ノ看
護法(大坂)

マシムヘシ近時一定ノ温度ヲ與ヘ小兒ヲ發育セシムル器械
アリ此レヲ小兒保温器ト云フ
又早産兒ハ絶ヘス睡眠ノ辟アルモノナレハ時々醒覺セシメ
テ乳ヲ與ヘサルトキハ終ニ餓死スルカ若クハ凍死スルモノ
ナリ之レ早産兒ハ腦ノ發育不完全ナルヲ以テ饑餓及ヒ皮膚
ノ感覺遲鈍ナレハナリ

(283) 初生兒丹毒

臍部若クハ陰部等ノ創面ヨリ丹毒黴菌浸入繁殖シテ發スル
病ニシテ其部ノ皮膚赤變シテ熱發シ且ツ硬結ヲ呈ス漸次周
圍ニ波及シ時トシテハ非常ニ廣キ部分ニ蔓延スルコトアリ

此症ヲ發スレハ高熱アリテ啼泣シ哺乳セサルニ至リ多クハ死ヲ免レヌ

(284) 初生兒糜爛

糜爛ハ皮膚ノ軟カニシテ濕潤シ又ハ摩擦ヲ受クル部分則チ陰部、腋窩、頸部ノ皺襞、膝脰、足跗等ニ現ハレ兒體ヲ久シク濕潤セシムルトキハ甚タ此症ヲ發シ易キモノナリ糜爛スレハ其部ノ皮膚紅色トナリテ濕潤シ上皮ハ廣ク剝脱シ若クハ皮膚ノ皺襞ニ從ヒ裂傷ヲ生スルニ至ル
處置 皮膚紅色トナリ濕潤セハ溫湯ニテ洗ヒ柔軟ニシテ乾キタル布片ヲ以テ濕潤ヲ拭ヒ後チ官粉又ハ澱粉ヲ撒布スヘ

生兒腎部ノ處置ニ就テ (東京)

シ又タ裂傷ヲ生スルニ至ラハ小兒ヲ濕湯中ニ浴セシメ創部ヲ濕ホシテ徐々ニ皺襞ヲ開キ脫脂綿ニテ拭ヒ官粉澱粉若クハ硼酸末ヲ撒布スヘシ

(285) 初生兒ノ濕疹

濕疹トハ初メ透明ノ液ヲ含メル小胞ニシテ後チ破開シテ此レヨリ多量ノ粘稠ナル液ヲ流シ遂ニ帶白黃色若クハ茶褐色ノ茄皮ヲ生シ其流出液ノ附着ニヨリ漸ヤク近接部ニ蔓延シ顔面若クハ四肢等ニ至ルマテ廣ク侵サル、モノナリ濕疹ハ傳染性ヲ有スルカ故ニ速ニ醫治ヲ請ハシムヘシ

(286) 遺傳梅毒ノ小兒分娩時ノ徵候

胎兒其父母ヨリ梅毒ヲ遺傳スルトキハ已ニ妊娠中ニ於テ死亡シテ流産スルカ若クハ早産ニヨリ直ニ死亡シ稀レニ生活シテ産出スルモ間々一定ノ部分則チ口圍手掌等ニ固有ノ帶青色ヲ呈シ極メテ細小ナル無數ノ皴癩ヲ現ハシ時トシテ産出後數日ニシテ鼻粘膜、齒齦等ヨリ劇シキ出血ヲ呈シタメニ死亡スルコトアリ但シ兩親ノ梅毒第三期ナルトキハ其産兒多クハ健康ナルヲ常トス遺傳梅毒ヲ有スル胎兒ノ肝臟及ヒ脾臟ハ著シク腫大シ其重量健康者ノ三倍ニ達ス胎盤モ甚ク大ニシテ體重ノ三乃至四分ノ一ニ達スルモノトス

(287)

遺傳梅毒ノ發症ニ就テ

- (1) 梅毒性水泡疹 已ニ分娩時ニ於テ現ハレ若クハ産出後數日ニシテ發シ其胞大ニシテ手掌足蹠等特殊ノ部位ヲ侵ス時トシテ胸部大腿等ニ此レヲ見ルモ顔面及ヒ頭髮發生部ニハ之レヲ發スルコトナシ此症アル小兒ハ最モ危險ニシテ大抵八乃至十日ニシテ死亡スルモノナリ
- (2) 梅毒性鼻加答兒 最モ早キモノハ生後三週中ニ發スルモノニシテ鼻粘膜腫脹シ鼻孔閉塞シ多量ナル膿様ノ分泌ヲ漏ラス此症ハ次ノ二症ト共ニ適當ノ療法ヲ施セハ治癒スヘシ
- (3) 梅毒性薔薇疹 赤色ノ斑ニシテ軀幹四肢ニ發ス
- (4) 裂瘡 口角肛門ノ皴癩及ヒ陰門ニ現ハル、破裂狀ノ創面

ナリトス

處置 小兒ノ攝生ニ注意シ身体ヲ暖カニシ速ニ醫師ニ托ス
ヘシ母体ニ梅毒療法ヲ施ストキハ其乳汁ヲ與フルモ可ナリ

(288) 内回轉術ノ準備

先ツ直腸膀胱等ヲ空虚ナラシメ法ニヨリ手及外陰部ヲ消毒
シ腔内ハ二%石炭酸水ヲ注キ指ヲ送入シテ充分洗滌シ後チ
両足ヲ屈シテ仰臥セシメ臀下ニハ枕子ヲ挿入シテ少シク高
クシ寢臺ヲ用フルトキハ横床位若クハ半横床位ヲ撰フヘシ
術者ノ手ハ常ニ胎兒ノ臀部ニ對向スルノ一手ヲ用フヘキモ
ノニシテ第一横位ニハ左手第二横位ハ右手ヲ用フルコト

知ルヘシ又タ回轉終ルノ後ハ第一横位ハ之レヲ第二足位ト
シ第二横位ハ之レヲ第一足位トスヘシ而シテ兒足ハ可及的
両足ヲ把握スルヲ佳トス若シ又タ一足ナルトキハ足位トナ
セル後チニ先進スヘキ一足ヲ撰フヘシ故ニ第一横位ニ在リ
テハ右足第二横位ハ左足ヲ把握スルモノトス

(289) 横位ニ於ケル内回轉術式ヲ記セ

術者ノ手ハ法ニヨリ肘部ニテ消毒シ之レニ石炭酸油ヲ塗付
シ其手ヲ集束シテ圓錐形トシ他手ヲ以テ陰唇ヲ開キ徐々ニ
腔内ニ送入スヘシ但シ陣痛起ラハ其進行ヲ停メ陣痛止ムヲ
待テ手ヲ進マシムルヲ要ス又タ胎兒ノ手若シ露出セハ臍帶

結紮紐ヲ結ヒ付ケ子宮内ニ退却セシムヘカラス術者ノ手已ニ子宮内ニ達セハ現存セル卵膜ハ此レヲ破開シ直チニ子宮内ニ入レ豫メ察知セル足ノ部位ニ向テ進メ他手ハ腹上ヨリ同シク其足部ニ抵テ内手ニ向テ壓迫シ以テ足ヲ把握スルニ便ナラシム若シ胎水漏出シ子宮腔内ニ餘地ナクシテ手ヲ進入シ得サル時ハ先ツ胎兒ノ背面ニ沿ヒ臀部ニ至リ次ニ大腿ニ隨ヘ以テ足部ニ達セシムヘシ而シテ兩足ヲ把握スルトキハ兩足若ノ中間ニ中指ヲ挾ミ示指及ヒ環指ヲ各足ノ外側ニ貼シ踝シ一足ナルトキハ足踝部ヲ示中指間ニ挾持スルヲ要ス此際足ト手トヲ誤ルコトナク足ノ左右モ亦善ク辨識セサルヘカラス此ノ如クニシテ一足若クハ兩足ヲ把握セハ痛陣間

時ニ於テ此レヲ牽引シ骨盤後壁ニ就キ之レヲ挽出シ胎兒ノ膝部陰裂間ニ至ルマテ牽引スヘシ此ノ如ク足部ヲ牽引セハ則チ回轉術ヲ全フセルモノナリ

(290) 頭位ニ於ケル回轉術式

手術ノ準備及手術法ハ横位ニ於ケルト異ナルコトナシ但シ術者ノ手ハ胎兒ノ腹面ニ對向スヘキモノヲ用ユ故ニ第一頭蓋位ニ在リテハ左手第二頭蓋位ニ於テハ右手ヲ撰フヘシ又々外方ノ手ハ之レヲ子宮底ニ貼シ兒足ヲ壓下シテ把持シ易シカラシム而シテ足ヲ執リ之レヲ牽下スルノ際外手ヲ以テ腹上ヨリ兒頭ヲ壓上シ子宮底ノ方面ニ送ルニ務ムヘシ頭位

ハ横位ニ比シ回轉スルキト容易ナルモノナリ

續 篇

第一章 一般看護法

(1) 卒倒ノ原因及處置如何

卒倒ハ腦ノ貧血若クハ充血ニヨリ發スルモノニシテ殊ニ妊婦ニ之レヲ發スルコト多ク其原因ハ多人數ノ集會セル室内ニ止リ不潔ノ空氣ヲ呼吸スルコト緊密ナル衣服ヲ着用スルコト身體ノ甚シク温熱ヲ感スルコト及精神ノ感動等ニヨリテ之レヲ起スコトアリ又出血ニ因スル貧血ニヨリ之レヲ發

ス其處置トシテハ衣服ヲ解キ頭部ヲ低カラシメ窓ヲ開キテ
 空氣流通ヲ佳良ナラシメ頭部ニハ氷嚢若クハ冷水ヲ浸セル
 布片ヲ貼シ又冷水ヲ飲用セシメ身体ヲ摩擦ス可シ出血ニ因
 スルモノハ速カニ原因ヲ處置シ体内水分ノ亡失ヲ償ハシム
 ルタメ葡萄酒温肉羹汁砂糖湯等ヲ服用セシムヘシ

(2) 外傷性出血ノ種類及處置如何

外傷性出血ニ三種アリ動脈出血靜脈出血及組織出血之レナ
 リ動脈性出血ハ鮮紅色ヲ呈シ線ヲナシ又ハ涌クカ如クニ迸
 出シ靜脈出血ハ暗赤色ニシテ平等ニ壁ニ沿フテ流出スヘシ
 組織出血ニアリテハ(毛細管出血)創面ヨリ汗ノ出ツルカ如ク

滲出スルヲ云フ處置ハ少量ナル出血ヲ止ルニハ創面上ニ清
 潔ナル布片又ハ綿花(可成石炭酸水ヲ醜セル)ヲ貼シ手ニテ固
 ク壓定スルカ又ハ綳帶ヲ施スヘシ動脈性出血ニアリテ其部
 ヲ高舉シ布片又ハ綿花ヲ極メテ堅ク壓抵シ綳帶ヲ施サ、ル
 可ラス甚シキ動脈出血ニシテ以上ノ方法ニヨリ止血セサル
 片ハ其創部ノ中心側ヲ堅縛シ動脈血ノ流入ヲ妨ケ創部ニハ
 堅ク綳帶ヲ施ス可シ又靜脈出血ニアリテハ其体ノ中心側(心
 臟ノ方位)ニ布帶ノ纏絡セルモノアルトキハ之レヲ解キ血流
 ノ歸流ニ便ナラシメ出血部ニハ綿花又ハ布片ヲ貼シテ壓抵
 スルヲ要ス大靜脈ノ出血ニアリテハ空氣ヲ心臟内ニ吸入シ
 肺動脈ノ空氣「エンボリー」等ヲ發シ直チニ死亡ニ陥ルノ危險

アリトス以上ノ處置ヲ了リ直チニ醫治ヲ乞フ可シ

(3) 火傷ノ種類及處置ヲ問フ

火傷ハ其輕重ニ從ヒ之レヲ三度ニ區別セリ即チ第一度ハ多
少ノ疼痛アリテ赤色ヲ呈スルモノ第二度ハ水胞ヲ造レルモ
ノ第三度ハ組織ノ壞疽ヲ來タセルモノ之レナリ
處置トシテハ第一度ニアリテハ新清ナルワゼリン、オレーフ
油又ハ石炭酸油ヲ塗布シ第二度ニアリテハ大ナル水胞ハ消
毒セル針尖ニテ之レカ内容ヲ泄ラシ而ル後前記ノ方法ヲ行
ヒ第三度ニアリテハ石炭酸水ニ浸セル布片ヲ以テ冷奄法ヲ
施ス可シ

(4) 全身凍寒及處置ヲ問フ

全身長ク強劇ノ寒冷ニ胃觸スルトキハ神經麻痺シ倦怠睡眠
ヲ催シ遂ニ精神昏瞶ニ陥リ呼吸心動微弱トナリ以テ凍死ニ
歸スルモノナリ處置トシテハ身体ノ一部凍冷ニカ、ルトキ
ハ必ス温湯火熱ヲ用フルコトナク先ツ氷片又ハ濕布ヲ以テ
摩擦シ後毛布ノ類ヲ以テ之レヲ温包ス可シ又全身劇寒ニ觸
レテ麻痺セルモノニアリテハ遽カニ之レヲ温室ニ容ル、コ
トナク先ツ濕布又ハ氷片ヲ以テ身体ヲ摩擦シ温暖ナル酒類
又ハ珈琲ヲ飲マシメ後徐々ニ身体ヲ温カナラシムルヲ要ス
其他ハ速カニ醫ヲ迎ヒテ適當ノ治療ヲ受ケシムヘシ

灌水器使用
法(實地)
(仙臺)

(5) 腔内澆注法ノ種類及目的如何

防腐用、止血用、及分娩催進用ノ三種アリ各一回ノ液量ハ大凡一〇〇〇、〇ト爲ス

(イ)防腐用 二十倍乃至百倍ノ石炭酸水若クハ百倍リゾトル

液ヲ用フ醫師ノ命セルトキハ一千倍乃至五千倍ノ昇汞水ヲ用フルコトナルモ中毒ノ虞アルヲ以テ胎胞破裂後ニハ之レヲ禁スヘシ

(ロ)止血用 二%ノ氷冷石炭酸水若クハ攝氏五十度ノ同溶液ヲ用フ

(ハ)分娩催進用 攝氏三十八度乃至四十度ノ熱湯ヲ冷セル温

湯(一%石炭酸温液ハ最モ可ナリ)一〇〇〇、〇若クハ二〇〇〇、〇ヲ每一時若クハ二時ニ反覆シテ用フ

(6) 腔内澆注ノ方式ヲ記セ

婦人ノ位置ハ仰臥ヲ良トス膝ヲ屈セシメ且ツ之レヲ開カシム腹部以下ニハ清潔ナル廣キ布片ヲ被ヒ薦骨部ニハ小ナル枕子ヲ挿入シ臀下ニハ廣キ受水盤ヲ挿ムヲ要ス澆注ノ方法ニアリテハ先ツ液ヲ充セル「イルリガトテル」ヲ凡ソ二尺ノ高サニ懸ケ始メニゴムノ壓止器ヲ開キテゴム管内ノ空氣ヲ驅出セシメ液ノ射出スルニ乗シ他手ニ陰唇ヲ開キ「イルリガト

腔内澆注法
(實地)
(仙臺)

ナル」ノ嘴端ヲ腔内ニ送入シ其嘴端ヲ以テ會陰部及腔ノ兩側壁ヲ交番ニ押壓シ注入液ノ漏泄ヲ容易ナラシムルヲ良トス若シ此際疼痛ヲ訴フルトキハ澗注液ノ子宮腔内ニ竄入シ之レヲ壓閉セントスルニ基クコトアルカ故ニ液ノ注入ヲ止メ嘴端ヲ會陰部ニ壓シ善ク澗注液ヲ流泄セシムヘシ使用後ノ「イルガーテル」嘴端ハ嚴重ニ消毒スルヲ要ス

(7) 澗腸法ノ種類及其方式ヲ記セ

澗腸方法
(實地)
(仙臺)

澗腸ニ三種アリ(一)催下澗腸(二)藥液澗腸(三)滋養灌腸之レナリ
(二)灌下澗腸 單ニ澗腸ト稱スルハ催下灌腸ヲ指スモノニシテ砂糖液葛湯牛乳ヒマシ油乳劑石鹼水、食鹽水等ヲ用ユ

其一回ノ液量ハ二百五十瓦乃至五百瓦トナス五百瓦以上ハ醫師ノ命ナケレハ用ユ可ラス溫度ハ攝氏三十五度ヲ法トス
位置ハ左側臥ヲ良トス而腔内灌注ニ於ケルカ如ク悉ク管中ノ空氣ヲ排除シ後チ其管ヲ肛門内ニ送ルヘシ但其嘴管ハ豫カシメ油ヲ塗り緩和ニ廻旋シツ、之レヲ送入スルヲ要ス
小兒ノ灌腸量ハ乳兒ニアリテハ一二食匙(一五、〇—三〇〇)二歳乃至十歳ノ小兒ニ在リテハ五〇、〇乃至二〇〇、〇ヲ適當ナリトス

(二)藥液灌腸 (三)滋養灌腸 藥液灌腸ハ藥液ヲ服用セシム可

ラサルモノニ就キ之レヲ肛門内ニ注入スルモノナリ是
レ小兒若クハ嚙下シ能ハサル患者ニ用ユ其量ハ大人ニ
於テ五〇、〇—一〇〇、〇ナリ滋養灌腸ハ飲食物ヲ接取シ
能ハサルノ際牛乳又ハ肉液ヲ直腸内ニ注入スルモノナ
リ

(8) 冷菴法及氷菴法ノ目的及方法

充血性ノ疼痛出血若クハ炎症ヲ防止スルノ目的ニ出ツ就中
氷菴法ハ其目的ニ對スル効力顯著ナルモノナリ而其方法ハ
左ノ如シ

(イ)冷菴法 之レヲ施ス可キ部分ノ大小ニ應シ手巾若クハ

布片ヲ適宜ニ疊積シ新タニ汲メル冷水若クハ氷ヲ加ヘ
タル水ニ浸シテ之レヲ皮膚ノ上ニ置キ油紙若クハ護謨
布ヲ以テ更ニ之レヲ被ヒ每十分乃至十五分時毎ニ他ノ
布片ヲ以テ交換スヘシ

(ロ)氷菴法 胡桃大ノ氷片ノ多數ヲ膀胱製若クハゴム製氷
囊中ニ入レ一片ヲ皮膚上ニ置キ以テ氷囊ヲ其上ニ貼ス
ヘシ老人及ヒ衰弱セル患者ニアリテハ氷菴法ニ由リ其
部皮膚全ク壞死スルコトアルカ故ニ此ノ如キ場合ニ於
テハ注意シテ豫シメ數層ノ布片ヲ皮膚上ニ置キ之レヲ
豫防セサル可ラス

(9) プリエスニッツ氏菴法及其初用

プリエスニッツ氏菴法トハ冷水ヲ布片ニ醗シテ之レヲ貼シ
其上ヲゴム布若クハ「フランネル」ヲ以テ包ミ其部ヲ温蒸スル
モノニシテ刺戟ヲ寛解シ血行ヲ佳良ナラシメ以テ疾病ノ治
癒ヲ催進スルノ効アリ

(10) 水蛭ノ應用法

水蛭ハ局所ノ血液ヲ排除セシカタメ諸種ノ充血等ニ應用セ
ラル之レヲ貼スルニハ其局所ヲ清潔ニシ糖水又ハ乳汁ヲ塗
リ蟲体ヲ布片又ハ紙片ニ包ミ其口ヲ皮面ニ接シ以テ之レヲ

貼付ス可シ或ハ數個ヲ貼用セント欲セハ其全數ヲ硝子管又
ハ吸角中ニ入レテ之レヲ貼スルヲ可トス又水蛭ヲ除去セン
ト欲セハ蟲体ニ少許ノ食塩ヲ散布スルヲ可トス若シ誤リテ
水蛭ヲ嚙下シタルトキハ食塩水ヲ飲用スヘシ水蛭ハ之ニヨ
リテ直チニ死スルモノナリ水蛭ヲ貼スルノ數ハ醫師ノ命ニ
ヨリテ定ムル所ノモノトス又水蛭ニヨリテ生シタル創口ヨ
リ久シク出血セシムルノ要アラハ温水ヲ以テ屢々拂拭スヘ
シ——出血ヲ止メントスルトキハ石炭酸ニ浸漬セル綿花ヲ
貼シ壓定スルヲ以テ足レリトス

(11) 三種檢温器ノ比較

檢温器ニ三種アリ攝氏及華氏列氏之レナリ各其創作者ノ名ヲ冠シクルナリ今各檢温器ニ付キ体温適度ノ室温、浴湯ノ温度熱性子宮灌注ノ温度ヲ比較スレハ次ノ如シ(但シ列氏ハ我國ニ於テ多ク用キサルカ故ニ括弧ヲ付セリ)

室温 $17.5 \parallel$ 華 $63.5 \parallel$ (列 14.)

浴温 $35. \parallel$ $95. \parallel$ (列 28.)

体温 $37. \parallel$ $98.6 \parallel$ (列 29.6)

熱性子宮灌注温 $50. \parallel$ $122. \parallel$ (列 40.)

日本人ニ於ケル温浴ハ三十八度乃至四十度ヲ以テ適當トス或ハ好テ高温度(凡四十八度位)ノ浴湯ニ入ルモノアリ

(12) 各種檢温器ノ換算法

各種檢温器ノ氷點及沸盪點ヲ對照シテ其割合ヲ求ムルニ攝氏ハ100.ニシテ華氏ハ180.列氏ハ80即チ攝氏9.4華氏9.列氏4.5(五度、九度、四度)ノ割合トナル故ニ此割合數5.9.4ヲ記憶シ互ニ其度數ヲ換算シ得ヘシ今攝氏ノ度ヲ列氏ニ改メントスルニハ攝氏ノ數ニ列氏ノ割合數(4)ヲ乘シ次テ攝氏ノ(5)ヲ以テ除スハシ即チ次ノ如シ

攝 $17.5 \times 4 \div 5 =$ 列 14

($17.5 \times 4 \parallel 70 \div 5 \parallel 14$)

右ノ算式ニヨリ攝氏十七度五分ハ列氏十四度ナルヲ知ルヘ

檢温器使用
法(實地)
(仙臺)

シ之ニ反シ列氏ヲ攝氏ニ換ヘントセハ其列氏ノ度ニ攝氏ノ
(5)ヲ乗シ次ニ列氏ノ(4)ヲ以テ除スヘシ即チ左ノ如シ

$$\text{列 } 28. \times 5 \div 4 = 35.$$

$$(28 \times 5 = 140. \quad 140 \div 4 = 35.)$$

右ノ算式ニ由リ列氏二十八度ハ攝氏三十五度ナルヲ知ル此
故ニ現在セル檢温器(甲)ノ度数ニ是ヨリ算出スヘキ檢温器(乙)
ノ割合數ヲ乘シ此得タル數ヲ甲ノ割合數ヲ以テ除スルトキ
ハ乙ノ檢温器ノ度数ヲ得ヘシ前記二種ノ算式ヲ文字ニ由リ
テ表示スルトキハ左ノ如シ

$$\text{攝氏ノ度} \times \text{列氏ノ割合數(4)} \div \text{攝氏割合數}$$

$$(5) = \text{列氏ノ度.}$$

節約スレバ、(攝×列÷攝＝列)トナシ

$$\text{列氏ノ度} \times \text{攝氏ノ割合數(5)} \div \text{列氏ノ割合數}$$

$$(5) = \text{攝氏ノ度.}$$

節約スレバ、(列×攝÷列＝攝)トナシ

又攝氏ヲ華氏ニ換算スルニハ其理固ヨリ同一ナリト雖トモ
華氏ハ他ノ檢温器ト異ニシテ氷點ヲ零度トナサスシテ卅二
度ト定メタルカ故ニ算出シタル度数ニ更ニ氷點以下ノ三十
二度ヲ加フルヲ要ス故ニ次ノ如シ

$$\text{攝氏ノ度} \times \text{華氏ノ割合(9)} \div \text{攝氏ノ割合數}$$

$$(5) = \text{華氏ノ度} + 32.$$

$$\text{攝氏 } 37 \times 9 \div 5 = \text{華 } 66.5 \quad 66.5 + 32 = 98.5$$

即チ攝氏三十七度ハ華氏九十八、六度ナルヲ知ル
 如此華氏ノ檢温器ハ他ノ攝氏及列氏ニ比スルニ氷點以下三
 十二ナル數ノ加リ居レルカ故ニ今若シ華氏ノ度數ヲ攝氏若
 シハ列氏ニ換算セント欲セハ先ツ始メニ三十二ヲ減シ然ル
 後一般ノ規則ニ從ヒ割合ノ數ヲ乗除セサル可ラス即チ左ノ
 如シ

$$\left(\begin{array}{l} \text{攝氏ノ度} \\ \text{換算スルニ} \end{array} \right) \times \frac{5}{9} = \left(\begin{array}{l} \text{華氏ノ度} \\ \text{割合數} \end{array} \right) \times \frac{9}{5}$$

$$\left(\begin{array}{l} \text{攝氏ノ度} \\ \text{割合數} \end{array} \right) \times \frac{9}{5} = \left(\begin{array}{l} \text{華氏ノ度} \\ \text{割合數} \end{array} \right) \times \frac{5}{9}$$

$$\left(\begin{array}{l} \text{華氏} \\ \text{122} \end{array} \right) - 32 \div 9 \times 5 = \left(\begin{array}{l} \text{攝氏} \\ \text{30} \end{array} \right)$$

即チ華氏百二十二度ハ攝氏五十度ナルヲ知ル可シ

(13) 檢温ノ法式

体温ノ檢査ハ腋窩ニ於テ之レヲ施スヲ常トス即チ一手ヲシ
 テ袖ヲ脱セシメ衣片ヲシテ腋窩ニ介在セシムルコトナク腋
 窩ニ發汗アラハ之レヲ拭除シ檢温器ノ球部ヲ腋窩ノ中央ニ
 於テ密ニ之レヲ插ミ其膊ノ肘部ヲ強ク胸ノ前面ニ持チ來シ
 十五分間ヲ經テ其度ヲ檢定スルヲ要ス其時間短キトキハ水
 銀ノ昇ルコト極度ニ速セサルカ故ニ差異ヲ生スヘシ時トシ
 テハ直腸又ハ腔内ニ於テ計測スルヲアリ此部ニ在リテハ通
 常腋窩ヨリ一度凡尚キヲ常トス即チ健者ノ体温ハ腋窩ニ於
 テ平均三十七度直腸又ハ腔内ニアリテハ三十八度ナリトス

(14) 撿脈法及年齡ニ由ル脈搏ノ差

脈搏ヲ撿測スルニハ腕關節ノ上部拇指ニ偏スル一側ノ内面ニ一手ノ指腹ヲ當テ他手ニ時計ヲ執リ一分時間ニ搏動スル所ノ脈搏ヲ數ヘ之レヲ赤色ノ鉛筆ニテ脈度表ニ記入スヘシ脈搏數ハ年齡ニヨリ同シカラス初生兒ノ脈搏ハ最モ多ク百三十五ヲ算スルモ年齡ノ加ハルニ從フテ漸次減少シ二十年乃至五十年ニ於テハ最モ少ク凡ソ七十、後チ高年ニ至レハ再ヒ増加スヘシ即チ每一分ノ脈搏ハ概テ次ノ如シ

撿脈法
(實地)
(仙臺)

135.	兒生初
125.	歲 一
100.	歲 三
92.	歲 五
90.	歲 十
78.	歲 五十
70.	歲 十二 至乃 十五
74.	歲 十六
79.	歲 十八

(15) 脈搏ト呼吸ト体温トノ關係

脈搏ハ体温ト共ニ増減シ呼吸モ亦々体温ノ進ムニ從ヒ其數増加スヘシ一回ノ呼吸ハ概テ四回ノ脈搏ト一致シ体温ト脈搏トノ對稱ハ左表ノ如シ

體 溫 度	一 分 時 間 脈 搏
三七、〇	七九
三八、〇	九一
三九、〇	一〇〇
四〇、〇	一〇九
四一、〇	一二〇
四二、〇	一三八

● 附 録

産婆ニ關スル諸規則

(第一) 産婆規則

産婆規則ナルモノハ明治三十二年七月十八日勅令第三百四十五號ヲ以テ規定セラレタリ産婆タルモノハ之レヲ熟知遵守セサルヘカラス

第一條 産婆試験ニ合格シ年齢廿歳以上ノ女子ニシテ産婆名簿ニ登録ヲ受ケタルモノニアラサレハ産婆ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

第二條 産婆試験ハ地方長官之レヲ舉行ス

第三條 一ヶ年以上産婆ノ學術ヲ修業シタルモノニアラサレハ産婆試験ヲ受クルコトヲ得ス

第四條 産婆名簿ニ登録ヲ爲サントスルモノハ産婆試験合格證書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ

産婆名簿ノ登録事項ニ異動ヲ生シタルハ二十日以内ニ産婆名簿ノ訂正ヲ願出ツヘシ産婆名簿ノ登録事項ハ内務大臣之レヲ定ム

第五條 産婆其住所ヲ移シタルタメ管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ直ニ前ノ管轄地方廳ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出テ後ノ管轄地方廳ニ産婆名簿登録ヲ願出ツヘシ前項ノ登録ヲ爲ササルモノハ産婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 産婆廢業シタルハ二十日以内ニ地方長官ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出ヘシ産婆失跡又ハ死亡シタルトキハ戶籍法ニヨル届出義務者ヨリ二十日以内ニ地方

長官ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツヘシ

第七條 産婆ハ妊婦産婦又ハ胎兒生兒ニ異狀アリト認ムルトキハ醫師ノ診断ヲ請ヒシムヘシ自ラ其所置ヲ爲スコトヲ得ス但臨時救急ノ手當ハ此限リニアラス

第八條 産婆ハ妊婦産婦産婦又ハ胎兒生兒ニ對シ外科手術ヲ行ヒ産科器械ヲ用ヒ藥品ヲ投與シ又タ之カ指示スルコトヲ得ス但消毒ヲ行ヒ臍帶ヲ切り灌腸ヲ施スノ類ハ此限リニアラス

第九條 産婆ハ産婆名簿ニ登録ヲ受ケサルモノニ妊婦産婦産婦又ハ胎兒生兒ノ取扱ヲ專任スルコトヲ得ス

第十條 産婆ニシテ墮胎ノ罪其他業務ニ關スル罪又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタルトキハ地方長官ハ産婆ノ業ヲ禁止シ一年以内之レヲ停止スルコトヲ得産婆名付登録前ニ犯シタル罪ニ付テモ亦同シ

第十一條 試験ニ關スル規程ニ違背シタルモノアルトキハ其試験ヲ無効トスルコトヲ得若シ既ニ登録ヲ受ケタルトキハ其登録ヲ取消スコトヲ得

第十二條 地方長官ハ産婆ノ業ヲ禁止シ又ハ停止シタル後本人ノ行狀ニ由リ其禁止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得

第十三條 産婆試験ヲ受ケントスルモノ又ハ産婆名簿ニ登録ヲ願出ルモノニシテ試験又ハ登録ノ以前墮胎ノ罪其他業務ニ關スル罪禁錮以上ノ刑ニ處セラルヘキ罪ヲ犯シタル者又ハ試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ナルトキハ試験又ハ登録ヲ許可セサルコトヲ得

第十四條 産婆ニシテ一ケ年間其業ヲ營マサルトキ又ハ瘋癲白痴不具癡疾トナリ其業ヲ營ニ堪ヘスト認ムルトキハ地方長官ハ産婆名簿ノ登記ヲ取消スコトヲ得

第十五條 産婆名簿ノ登記取消ノ主要ナル登録事項ノ訂正并ニ産婆業ノ禁止又ハ停

止及其解除ハ地方長官之レヲ告示スヘシ

第十六條 左ニ掲クルモノハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一、産婆名簿ニ登録ヲ受ケスシテ産婆ノ業ヲ爲シタルモノ
- 二、産婆名簿ノ登録ヲ取消シタル後産婆ノ業務ヲ爲シタルモノ
- 三、産婆ノ業務ヲ禁止又ハ停止セラレタル後産婆ノ業務ヲ爲シタルモノ
- 四、第三條ニ關シ虚偽ノ証明又ハ陳述ヲ爲シタルモノ
- 五、第七條乃至第九條ニ違背シタルモノ

第十七條 第四條第三項第五條第二項及第六條ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

付 則

第十八條 本令施行以前内務省又ハ地方廳ヨリ産婆ノ免狀又ハ鑑札ヲ受ケ現ニ其業ヲ營ムモノハ本令施行後六月以内ニ地方長官ニ願出産婆名簿ニ登録ヲ受クルコト

ヲ得

第十九條 地方長官ハ産婆ニ乏シキ地ニ限リ當分ノ内出願者ノ履歴ニヨリ業務ノ地域及ヒ五ケ年以内ノ期限ヲ定メ産婆ノ業ヲ免許スルコトヲ得

前項ノ免許ヲ受ケタルモノハ産婆ニ準シ本令ヲ適用ス 但産婆名簿ニ登録スル限ニアラス

第二十條 本令ハ明治三十二年十月一日ヨリ之レヲ施行ス

(第二) 産婆試験規則

明治三十二年九月六日内務省令第四十七號トシテ發布シラレタリ

産婆試験規則

第一條 産婆試験願出ノ期日舉行ノ期日場所ハ地方長官之レヲ告示ス

第二條 試験科目ハ左ノ如シ

學 說

第一 正規妊娠及其取扱法

第二 正規産褥ノ経過及褥婦生兒ノ看護法

第四 妊婦産褥婦生兒ノ疾病消毒ノ方法及産婆心得

實 地

第一 實地試験若シクハ模型試験

第三條 學說試験ニ合格シタルモノニアラサレハ實地試験ヲ受クルコトヲ得ス

第四條 學說試験ニ合格シ實地試験ニ落第シタルモノ又ハ實地試験ヲ受ケサルモノ

ハ次回以後ノ試験ニ於テ實地試験ノミヲ受クルコトヲ得

第五條 産婆試験ヲ受ケントスルモノハ産婆學校産婆養成所等ノ卒業証明アル修業

証書若クハ醫師二名ノ証明アル修業履歴書ヲ添ヘ地方長官ニ願出ツヘシ 但第四條ニ依リ實地試験ノミヲ受ケントスルモノハ學說試験合格ノ証明書ヲ添ヘ願出ヘシ 地方長官前項ノ願出ヲ許可スルトキハ指令ヲ要セス其願書ヲ受理シ許可セザルトキハ之レヲ却下ス

第六條 産婆試験ヲ願出ルモノハ收入印紙ヲ以テ試験手数料金一圓ヲ納付スヘシ 但シ納付シタル手数料ハ還付セス

第四條ニ依リ實地試験ノミヲ願出ルモノト雖モ本條ノ手数料ヲ納付スヘシ

第七條 地方長官ハ學說試験及ヒ實地試験ニ合格シタル者ニ証明書ヲ交付ス

第八條 地方長官ハ受験人心得其他前項ノ條規ニ違背シタル者ニ退場ヲ命スルコトヲ得

當該官吏ハ受験人心得其他前項ノ條規ニ違背シタルモノニ退場ヲ命スルコトヲ得

(第二) 産婆名簿登録規則

明治三十二年九月六日内務省令第四十八號トシテ發布セラレタリ

産婆名簿登録規則

第一條 産婆名簿ハ左ノ事項ヲ登録スヘシ

- 一 登録番號登録年月日
- 二 族籍(外國人タルトキハ其國籍)氏名年齢住所
- 三 産婆試験ニ合格シタル地方廳名其年月日(産婆規則第十八條ニ由リ登録スルモノハ其旨ヲ記載ス)
- 四 開業地(住所以外ニ於テ開業スルモノ又ハ出張所ヲ設クルモノハ之ヲ記載ス)

- 五 業務ニ關スル犯罪禁錮以上ノ刑ニ該當スル犯罪(其年月日事由)
- 六 産婆業ノ禁止停止解除(其年月日事由)
- 七 名簿取消ノ年月日事由
- 第二條 産婆名簿ハ別紙様式ニ依リ調製スヘシ(様式略)
- 第三條 産婆ノ業ヲ營マントスルモノハ本令第一條第二號第四號ヲ明記シテ其住所地ヲ管轄スル地方廳ニ願出産婆名簿ニ登録ヲ受ク可シ
- 第四條 産婆規別第五條第一項ノ場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ハ産婆名簿ノ取消ノ登録ヲナシ其登録事項ノ謄本ヲ以テ後ノ管轄地方廳ニ其旨ヲ通知スヘシ後ノ管轄地方廳ハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟タズ本人ノ願出ニ由リ直チニ産婆名簿ニ登録ヲ爲スヘシ 但必要ト認ムル場合ニ於テハ前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟テ又ハ之ニ照會ヲ經タル後登録ヲ爲スヘシ

第五條 産婆名簿ノ訂正又ハ取消ノ登録ヲ爲ストキハ其部分ハ朱線ヲ施シ訂正又ハ取消ノ事由年月日ヲ朱記スヘシ

第六條 産婆名簿ニ登録ヲ受ケタルモノハ謄本ヲ受クルコトヲ得謄本手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スヘシ

(第四) 死産証書並ニ死胎檢案書

産婆流産又ハ死産ヲ處置シタルトキ之レヲ造ルヘキモノナリ而記載ノ事項ハ全ク同一ナレトモ其名稱異レリ即妊娠四月以上ノ死産兒ヲ埋葬又ハ火葬セントシテ其認許證ヲ請フニハ死産證書ヲ添付スルヲ要シ家督相續人トシテ届出タル胎兒死胎ニテ生シタル時家督相續ノ取消ヲ申請スルニハ死胎檢案書ヲ添付スルヲ要ス内務省令ヲ以テ規定セラレタル書式左ノ如シ

死産證書 (死胎檢案書)

- 一 父ノ氏名(私生子ノ場合ニアリテハ母ノ氏名)
 - 二 父ノ生年月日(私生子ニアリテハ之ヲ除ク)
 - 三 母ノ出生ノ年月日
 - 四 父ノ職業(私生子ニアリテハ母ノ職業)
 - 五 妊娠月數
 - 六 分娩ノ年月日時
 - 七 分娩ノ場所
 - 八 死胎ノ男女ノ別
 - 九 死胎ノ嫡出子、庶子、私生兒ノ別
- 右證明(檢案)候也

年月日

住 所

醫士(産婆) 何 某 印

記 載 方

- 一 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルキハ其父ノ氏名ヲ記ス可シ若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記スヘシ
- 二 死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生年月日ヲ記スヘシ
- 三 死胎ノ何タルニ拘ハラヌ其母ノ出生ノ年月日ヲ記スヘシ
- 四 死胎ノ嫡出子タルカ又ハ庶子タルトキハ其父ノ職業ヲ記スヘシ若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スヘシ總ヘテ職業名ハ商又ハ工等單一ノ汎稱ニ據ラスシテ何商又ハ何工等成可ク細密ニ記ス可シ
- 五 妊娠ノ月日ハ受胎ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ死胎ハ約四週日ヲ一月

- ト見做シタル第幾月日時ニ該當スルカヲ記ス可シ
- 六 分娩ノ月日時ヲ記ス可シ若シ明瞭ナラサルトキハ推定シタル年月日ヲ記シ
ヘシ此場合ニハ「推定」ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス
 - 七 分娩ノ場所ハ郡市町村大字名及番地番戸番屋敷ヲ記スヘシ
 - 八 死胎ノ男女何レニ屬スルヤヲ記スヘシ若シ鬼胎等ニアリテ男女ノ區別ヲ爲
シ能サル場合ニ於テハ其事由ヲ添テ「不詳」ト記スヘシ
 - 九 胎兒ハ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルカ若シハ私生兒ナルカノ區別ヲ記スヘシ
- 墓地及埋葬取締規則施行法細則標準(明治十七年十一月内務省乙第四十號達)
- 第十一條 死体ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添へ區長又ハ
戸長ノ認可証ヲ添フヘシ醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋
葬又ハ火葬セント欲スルキハ醫師ノ檢案書ヲ差出シ區長又ハ戸長ノ認可証ヲ乞フ

ヘシ妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師又ハ産婆ノ死産証ヲ差出シ區長又ハ
戸長ノ認可証ヲ乞フヘシ

戸 籍 法

第三十六條 胎兒ヲ家督相續人トシテ届出タル場合ニ於テ其胎兒カ死兒ニテ生レ
タルトキハ母ハ出産ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ醫師又ハ出産ニ立會ヒタル産婆ノ檢案
書ヲ提出シテ家督相續ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス 母カ登記取消ノ申請ヲ爲サ
、ルトキハ家督相續人其事實ヲ知リタル日ヨリ一ヶ月以内ニ登記ノ取消シヲ申請
スルコトヲ要ス(同シク檢案書ヲ添ユ可キコト勿論ナリ)

(第五) 産婆ノ權利及刑罰ニ關スル法律

刑事訴訟法第三編其三章第六節証人訊問

第二百二十五條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ証言ヲ拒ムコトヲ得

第一 (略シ)

第二 醫師、藥商、穩婆、辯護人、公証人、神職、僧侶其身分職業ノタメ委託ヲ

受ケタルニ因テ知リタル事實ニシテ黙秘ス可キモノニ關スル件

証言ヲ拒ムモノハ拒絕ノ原因タル事實ヲ開示シ且之レヲ使明スヘシ

民事訴訟法第二編第一章第六節人証

第二百九十八條 左ノ場合ニ於テハ証言ヲ拒ムコトヲ得

第一 (略シ)

第二 醫師、藥商、穩婆、辯護人、神職、僧侶其身分職業ノタメ委託ヲ受ケタル

ニ由リテ知リタル事實ニシテ黙秘スヘキモノニ關スル件

第三 問ニ付テ答辨カ証人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ耻辱ニ歸スルカ又ハ其刑事上

ノ追訴ヲ招ク恐レアルトキ

第四 問ニ付テ答辨カ証人又ハ前條ニ掲ケタル者ノ爲メ直接ニ財産權上ノ損害ヲ

生セシムヘキトキ

第五 證人カ其技術又ハ職業ノ秘密ヲ公ニスルニアラサレハ答辨スルコト能ハサ

ルトキ

改正刑法

第二十九章 墮胎ノ罪

第二百十二條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年

以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルモノハ二年以下

ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルモノハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス
 第二百十四條 醫師產婆藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎
 セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタルモノ
 ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十五條 婦女ノ囑託ヲ受ケヌ又ハ其承諾ヲ得ヌシテ墮胎セシメタルモノハ六
 月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之レヲ罰ス

第二百十六條 前項ノ罪ヲ犯シ婦女ヲ死傷ニ致シタルモノハ傷害罪ニ比較シ重キニ
 從テ處斷ス

(第六) 宮城縣ノ產婆ニ關スル諸規則

縣令第二八號 明治三十三年五月八日
 產婆試驗規則施行細則左ノ通り定ム

產婆試驗規則施行細則

第一條 產婆試驗ハ每年春秋二回之レヲ舉行ス

但試驗願出ノ期日舉行ノ期日及場所ハ一ケ月前ニ告示ス

第二條 產婆試驗ヲ受ケントスルモノハ別紙様式ニヨリ市町長ノ與印ヲ受ケ郡市役
 所ヲ經由シ當廳ニ願出ツヘシ

第三條 產婆試驗願書ハ本人之レヲ自書スヘシ

第四條 試験中一科以上欠席ノ者ハ其期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

(別紙) 様 式

產婆試驗願

何都市町村番地(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)士族平民(外國人ナレハ國籍)

氏名

何年何月生

自分儀何年何月産婆(實地)試験相受度別紙規定ノ書類相添此段相願候也

年月日

氏名印

(外國人ナレハ捺印ヲ要セス)

何縣知事 殿

市町村長奥印

縣令第二十九號 明治三十三年五月十日

產婆試験問題數并ニ採點法左之通定ム

- 第一條 學說試験ハ筆答トス
- 第二條 學說試験問題數左ノ如シ
 - 第一 正規妊娠分娩及其取扱法
 - 第二 正規産褥ノ經過及ヒ生兒看護法
 - 第三 異狀ノ妊娠分娩及其取扱法
 - 第四 妊婦、産婦、褥婦、生兒ノ疾病消毒及方法産婆心得
- 第三條 實地試験ハ當分模型試験ヲ行フ
- 第四條 實地試験問題ハ二問トス
- 第五條 採點法左ノ如シ

- 第一 學說試験ハ一問ノ満點ヲ十點トシ每項點數五點以上ヲ得而シテ各項ノ點數ヲ合算シ其全點數四十點以上ヲ得タルモノハ合格トス
- 第二 實地試験ハ一問ノ満點ヲ十點トシ一問ノ點數二點半以上ニシテ其合點數十點以上ヲ得タルモノヲ合格トス

告示第六十四號

産婆試験受験人ノ心得左ノ通り定ム

産婆試験受験人心得

- 第一條 試験ハ午前九時ニ始メ午後三時ニ終ル
但臨時時間ヲ變更スルトキハ都府告示スヘシ
- 第二條 受験人ハ試験時間三十分前迄ニ到着シ試験委員ノ差圖ニ從ヒ順次着席スヘシ

シ

- 第三條 試験場ニ着席シタル上ハ互ヒニ談話シ又ハ不正ノ行爲アルヘカラス
 - 第四條 受験人ハ筆墨ノ外書類ヲ携帯シ試験場内ニ入ルコトヲ得ス但試験委員ノ許可ヲ得ルニアラサレハ試験場外ニ出ルコトヲ得ス
 - 第五條 問題答記ノ時間ハ一問ニ付キ二時間以内トス
 - 第六條 答記書ニハ各問題毎ニ自己ノ氏名ヲ記入シ試験委員ニ差出スヘシ
但答記ヲ爲シ能ハサルモノハ其旨ヲ記シ本項ノ手續ヲ爲スヘシ
 - 第七條 試験中不都合ト認ムヘキ所以アルモノハ退場ヲ命スルコトアルヘシ
- 縣令第六六號

産婆組合會設置規則

- 第一條 產婆ハ本則ニ依リ郡市長ノ認可ヲ得テ組合會ヲ設置スヘシ
- 第二條 組合會ハ毎月一回會期ヲ定メテ相會シ其業務ニ關スル事項ヲ商議講究シ互ヒニ裨補スルヲ以テ目的トス
- 第三條 組合會ハ土地ノ狀況ニヨリ一郡市ヲ便宜區劃シ設置スルコトヲ得
- 第四條 組合會ハ取締一名幹事若干名ヲ互選シ其取締ノ氏名ハ撰舉ノ都度郡市長ニ報告スヘシ
- 第五條 產婆ヲ營業スルモノハ組合會ニ加入シ其會ニ出席スヘキモノトス
- 第六條 組合會ハ郡市長ノ監督ニ屬ス
- 第七條 組合會ハ本則施行ニ要スル規約ヲ設ケ郡市長ノ認可ヲ受クヘシ
- 第八條 組合取締ニ於テ毎一年間開會ノ數並ニ出席產婆ノ住所(冒頭ニ出席數)開會ノ景況ヲ取調毎年一月三十一日マテニ郡市長ニ報告スヘシ郡市長ハ翌月十日迄ニ

知事ニ報告スヘシ

付 則

- 第九條 組合會ニ於テ特ニ規定ヲ定メ產婆學ヲ講修スヘキモノトス
- 第十條 講師ハ會員中ヨリ互撰シ若シクハ開業醫師ニ委托スルヲ得
- 第十一條 講修ニ要スル書類及ヒ其課程ハ講師ニ於テ定ムヘキモノトス
- 第十二條 第九條乃至第十一條ハ郡市長ノ認可ヲ得テ施行スヘシ

醫師依頼書及分娩記錄表

產婆ノ妊娠分娩ニ當リ醫ヲ招クモ其狀態ノ不明ナルトキハ醫師ニ於テ需用ノ器械藥品ヲ携帶スル能ハス爲メニ圖ラサル不幸ヲ招クコトアリ故ニ豫メ表ヲ製シ置キ其要點ヲ認メ醫ヲ招クコト最モ肝要ナリ今余ガ考案ニカ・ル表ヲ掲ケテ參考ニ供ス

御依頼書	
何町何番地	產婦 氏 名
何町何番地	年 齡
經、初、妊婦	
一 娠第何月	
一 何位第何体向	
一 陣痛 何日午前何時發起	
一 子宮孔(何程開大)	
一 破水 何日午前何時破水又ハ破	
水セス	
一 下向部ハ骨盤何部ニアリ	
一 心音聽收、部位、有無	
一 主徴 出血、疼痛、其他	
右ノ容態ニ付至急御來診奉願候	
何月日	產婆何某
醫師何某殿	

御依頼書	
何町何番地	褥婦 何 某
何町何番地	年 齡
一分娩後ノ日數	
一 褥婦發病ノ時日	
一 分娩ノ種類及難易	
一 惡寒刺慄ヲ發シタル時間	
一 体温及脈搏	
一 主徴 出血、發熱、浮腫、糜爛、排	
尿障害其他	
右ノ容態ニ付至急御來診願上候	
何月日	產婆 何某
醫師何某殿	

私立仙臺產婆學校々則

第一章 總則

- 第一條 本校ハ主トシテ產婆志望者ニ必要ナル高等ノ學術ヲ授クルヲ以テ目的トス
- 第二條 本校ノ修業年限ハ滿一ケ年トス
- 第三條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月卅一日ニ終ル
- 第四條 本校學科程度及教科用書ハ別表ノ如シ
- 第五條 學年ヲ別チテ左ノ二學期トス
- 第一學期 第二學期
- 第六條 本校ノ休業日ハ左ノ如シ
- 一日曜 一 大祭 一 夏期 一 冬期

第二章 入學及ヒ退學

第七條 生徒入學期ハ毎年學年ノ始トス

但欠員アルトキハ其都度臨時補欠募集スルコト有ヘシ

第八條 本校ニ入學セントスルモノハ年齡滿十八年以上ニシテ高等小學全科卒業ノ

學力ヲ有シ入學試驗ニ合格シタルモノトス

第九條 高等小學全科卒業シタルモノニシテ其學校長ノ證明書ヲ有シ本校長ニ於テ

其學力相當ト認ムルモノハ試驗ヲ要セス入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十條 入學志願者ハ第一號及第二號書式ニ依リ入學願書及履歷書ヲ差出スヘシ

第十一條 入學許可ヲ得タルモノハ一週間以内ニ保證人ヲ定メ第三號書式ニ依リ在

學保證書ヲ差出スヘシ

但保證人ハ仙臺市ニ居住スル丁年以上ノ男子ニシテ本校ノ適當ト認メタル者ニ限

ル

第十二條 疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ依テ休學セントスルトキハ保證人連署ノ上

其事由及日數ヲ記入シ届出許可ヲ受クヘシ

但シ無届欠席一ヶ月以上ニ亘ルモノハ除名ス

第十三條 左ノ各項ニ觸ルモノハ放校ヲ命シ若クハ除名スヘシ

- 一、疾病又ハ成績不良ニシテ卒業ノ見込ナキモノ
- 一、品行不正ニシテ訓誡ヲ加フルモ改慎ノ狀ナキ者
- 一、出席常ナラサルモノ
- 一、二回以上停學ヲ命セラレタルモノ
- 一、無届欠席一ヶ月以上ニ涉ルモノ

第三章 試 驗

第十四條 試験ヲ分チテ學期試験學年試験ノ二種トス

一、學期試験ハ各學期ノ終ニ施行ス

一、學年試験ハ學年ノ終ニ施行ス

第十五條 學科ノ試験點數ハ一學科百點ヲ以テ滿點トス而シテ各科四十點以上平均六十點以上ヲ以テ及第トス各科六十點以上平均九十點ヲ以テ優等及第トス

第十六條 學年試験ニ及第シタルモノハ卒業證書(第四號書式ヲ授與ス)

第十七條 疾病其他ノ事故ニ依リ學年試験ヲ受クルコト能ハサリシモノ及ヒ落第シタルモノハ原級ニ止ム

但相當ノ事由アリテ學年試験ヲ受クルコト能ハサリシ者ニシテ試験結了後三日以內ニ受験申出ツル者ニ限り校長ノ意見ニ依リ追試験ヲ施行スルコト有ヘシ

第四章 學 費

第十八條 學費ヲ分チテ東修及授業料ノ二種トシ左ノ通り定ム

一、東 修 金壹圓

一、授業料 金拾貳圓(一學期分)

第十九條 東修ハ入學ノ當時ニ限り在學證書ニ添ヘテ差出スモノトス

第二十條 授業料ハ各學期ノ初メニ納付スヘシ若シ期日後一週間ヲ過クルモ納付セサルトキハ保証人ヨリ徴收シ或ハ停學ヲ命スルコトアルヘシ

第二十一條 本校生徒ハ如何ナル事故ニヨリ休學スト雖トモ其間授業料ハ納付スヘキモノトス

第五章 生徒心得及賞罰

第二十二條 本校生徒ハ常ニ貞順婦道ヲ守リ相互ニ視陸シ一意學業ニ勵ミ以テ進歩ノ道ヲ計ルヘシ

第廿三條 生徒ハ能ク教員ノ訓誡ヲ服膺シ且ツ左ノ諸項ヲ遵守スヘシ

- 一、常ニ衣服身体ヲ清潔ニシ身体ノ健全ヲ保ツヘキ事
- 一、髮飾傘及下駄ノ類ハ凡テ質素ヲ旨トシ衣服ハ本綿服ノ外着用スヘカラサル事

- 一、常ニ容姿ヲ正シクシ禮儀ヲ厚フシ苟モ輕佻野卑ノ舉動アルヘカラス
- 一、飲酒ハ勿論喫煙スル事ヲ嚴禁ス
- 一、教室ニ在テハ起居進退凡テ教師ノ命ヲ受ヘキ事
- 一、授業中ハ校舍ノ靜肅ヲ旨トシ決シテ婦道ニ反スルノ行爲アルヘカラス
- 一、無用ノ書籍又ハ器具ヲ携帯スヘカラサルハ勿論所持品ハ決シテ散亂スヘカラス
- 一、本校ノ器物ハ成ヘク丁寧ニ使用スヘシ若シ誤テ之ヲ毀損スルトキハ直ニ其

旨届出校長ノ指圖ヲ待ツヘシ

- 一、病氣其他不得止事故アリテ欠席スルモノハ保証人連署ノ上届出許可ヲ受クヘシ

- 一、生徒ハ互ニ金錢物品ノ貸借交換ヲナスヘカラス
- 一、父兄親戚又ハ保証人ノ監督ナクシテ劇場寄席其他多衆集合ノ場所ニ立寄ルヘカラス

第廿四條 一學期中ノ成績ニ於テ學術優等品行方正ニシテ他生徒ノ模範トナルヘキモノニハ賞狀ヲ授與シ特ニ之ヲ優待スルモノトス

第廿五條 生徒若シ其本分ニ違ヒタルトキハ其輕重ニ依リ左ノ處分ヲ爲スヘシ

- 一、戒飭 訓誡譴責シテ將來ヲ慎シマシム
- 二、放校 屢々戒飭ヲ受クルモ改慎ノ實ナキモノ

第六章 寄宿舍

第廿六條 本校ハ仙臺市外ノ生徒ヲシテ散宿ヲ許サス生徒ノ父兄ニ代リテ保護監督獎勵ノ任ニ當リ品行ノ陶冶學業ノ進歩身体ノ健康ニ注意ス

但シ市内ノ生徒ト雖トモ其志願ニ依リテ入舎ヲ許ス

第廿七條 本舎ニハ舎監室長主計ヲ置キテ寄宿生ノ保護監督ヲ爲ス

第廿八條 舎監ハ寄宿生ノ學資金ヲ監督シ濫費ナカラシム

第廿九條 室長ハ寄宿生中ヨリ學力優等品行方正ニシテ德望アルモノヲ撰ヒ之レヲ

命ス

第三十條 室長ハ寄宿生ヲ代表シ校長及舎監ノ命ヲ傳ヘ舎則ノ勵行ヲ勉ムルト同時

ニ寄宿生ヲ誘導補助シテ舎内ノ秩序ヲ保維スヘシ

第卅一條 舎内ニアリテハ確ク左ノ諸項ヲ守リ舎監及室長ノ趣旨ニ遵ヒ相互ニ親睦

スヘシ

一、舎内ハ清潔整頓ヲ心掛ケ及靜肅ヲ旨トシ他人ノ復讀又ハ安眠ヲ妨クヘカラ

ス

一、晨起ノ號音ニテ直チニ褥ヲ離レ寢具ヲ取片付ケ服裝ヲ整ヘ盥嗽ヲ終ヘテ室

内ヲ掃除シ器物ノ整置ヲ整順スヘシ

一、就褥ノ音號ニテ直チニ其準備ヲナシ(炭火ハ必ス始末スヘシ)舎監ノ檢閲ヲ

經消燈ノ上就褥スヘシ

一、外出セントスルトキハ必ラス舎監ノ許可ヲ受ケ歸舎ノ時亦舎監ニ面スヘシ

一、門限ハ常ニ黃刻前トス

一、外出スルトキハ同宿生ト同伴スヘキ事

一、外出中疾病其他ノ事故ニ依リ門限ニ遅ル、トキハ付添人同道ノト歸舎シ其

事由ヲ舍監ニ具申シ其指圖ヲ受クヘキ事

一、父母又ハ近親ノ疾病其他止ヲ得サル事故アリテ不時ニ外出外泊或ハ歸省セ
ントスルモノハ豫メ保證人ノ證明書ヲ以テ其許可ヲ請フヘシ

一、來訪者ニハ舍監ノ許可ヲ得應接所ニ於テ面談スヘシ決シテ舍内ニ誘行スヘ
カラス但シ疾病ニ依テ應接所ニ出ツルコト能ハサルモノハ舍監ノ指揮ヲ受
クヘシ

一、舍内ニ於テ猥リニ飲食スヘカラス

一、物品ヲ賭スル遊戯其他苟モ婦道ニ悖ル行爲アルヘカラス

一、新聞雜誌稗史小説及課業外ノ圖書ハ舍監ノ許可シタルモノニアラサレハ閱
讀ハ勿論所持スル事ヲ禁ス

一、金錢其他重要ノ物品ハ舍監ノ保管ヲ請フコトヲ得ヘシ萬一舍内ニ於テ紛失

物アルトキハ速ニ其趣ヲ舍監ニ届ケ出ツヘシ

第卅二條 起臥食事外出及沐浴等ノ時間其他臨時諸般ノ事柄ハ其時々告諭又ハ揭示
ニヨリテ承知スヘシ

第七章 職員職務

第卅三條 校長ハ校務一切ヲ總理シ職員ヲ監督シ生徒教養ノ責ニ任ス

第卅四條 幹事ハ校長ノ指揮ヲ受ケ校務ヲ分擔シ生徒ヲ監督ス

第卅五條 教員ハ校長ノ指揮ヲ受ケ生徒ノ教養ヲ掌リ兼テ校務ヲ分擔ス

第卅六條 舍監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ寄宿舎ニ關スル事務ヲ掌リ寄宿生徒ヲ監督ス

(第一號書式)

入 學 願

妾儀今般御校へ入學志願ニ付御試験ノ上御許可相成度別紙履歷書相添此段奉願候也

年月日

府縣郡町村番地何誰何女
身分

何之

年 月 日
誰 生

仙臺產婆學校長伊藤彪殿

(第二號書式)

履歷書

府縣郡町村番地何誰何女
身分

何

年 月 日
誰

明治何年何月ヨリ何年何月マテ何學校入學何々ヲ修業或ハ卒業ス
何年何月ヨリ何年何月マテ何學校ニ入リ何學卒業
賞 罰
右之通り相違無之候也

年月日

右 何 之 誰

仙臺產婆學校長伊藤彪殿

(第三號書式)

在學證

印紙

府縣郡町村番地何之誰何女
何 之 誰

右今般御校へ入學御許可相成候上ハ御規則遵守致サセヘキハ勿論在學中本人ニ關スル一切ノ事件ハ私共ニ於テ御引受可申依テ連署ノ上在學證差上置候也

本人ノ父兄

何

之

誰

仙臺市在籍

保證人

何

之

誰

年月日

年

月

生

仙臺產婆學校長伊藤彪殿

(第四號書式) 卒業證書

第 號

何縣身分

何

之

誰

年

月

生

本校規定ノ卒業試驗ニ及第ス依テ此證ヲ與フ

試驗成績

何學何

何學何

何學何

何學何

實地何

全成績何

試驗委員

何

之

誰

年月日

何

之

誰

何

之

誰

仙臺產婆學校長伊藤彪印

誰

印

學 科 表

解 剖 學	科 學	第 一 學 期	間 時	第 二 學 期
	目 期			
六	總論、骨、筋、內臟、神經	五	管器	

生理學	六	總論、骨、筋、內臟、神經 五管器、胎生學		
衛生學	六	總論、空氣、水、土、 飲食物	二	細菌學大意
產婆學	六	順產論、哺乳論、正規產褥論 妊娠論	五	妊娠分娩經過中異常論、產褥 哺乳中ノ障害論
器械學	三	醫療器械及使用法	三	醫療器械及使用法
實地	三	看護法患者ニ付テ、產婆摸 形ニ就テ	八	產婦妊娠ニ就テ
修身	一	修身、實踐	一	同

仙臺市立町通九番地愛生園內
仙臺產婆學校
(電話長三〇五番)

明治四十二年三月十日印刷
明治四十二年三月十三日發行

(定價金壹圓五拾錢)

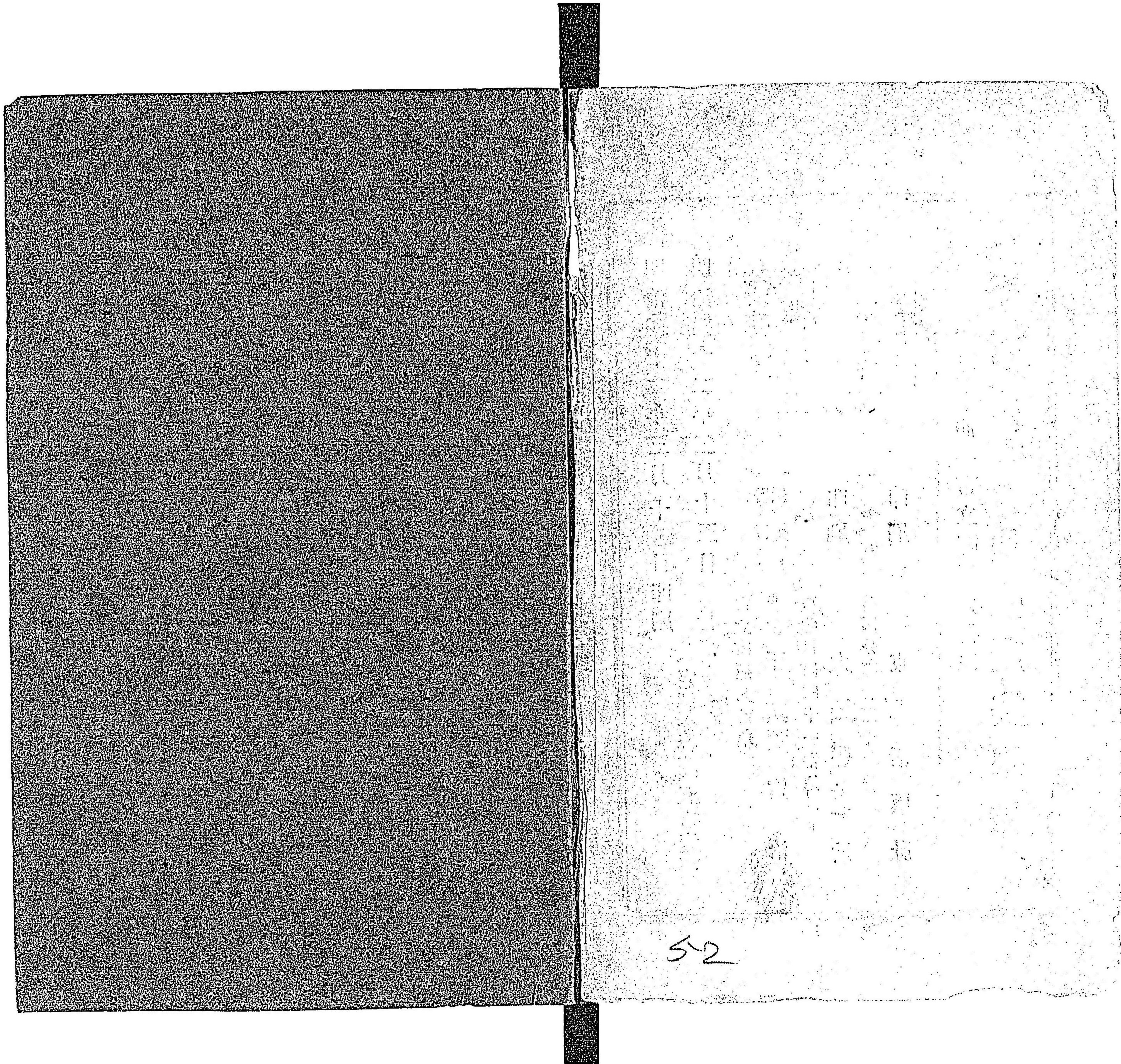
復製
不許

發行所 仙臺市立町通九番地
編輯人 千葉寅
印刷者 大友豐之助
印刷所 仙臺市國分町百三十七番地
東北活版社



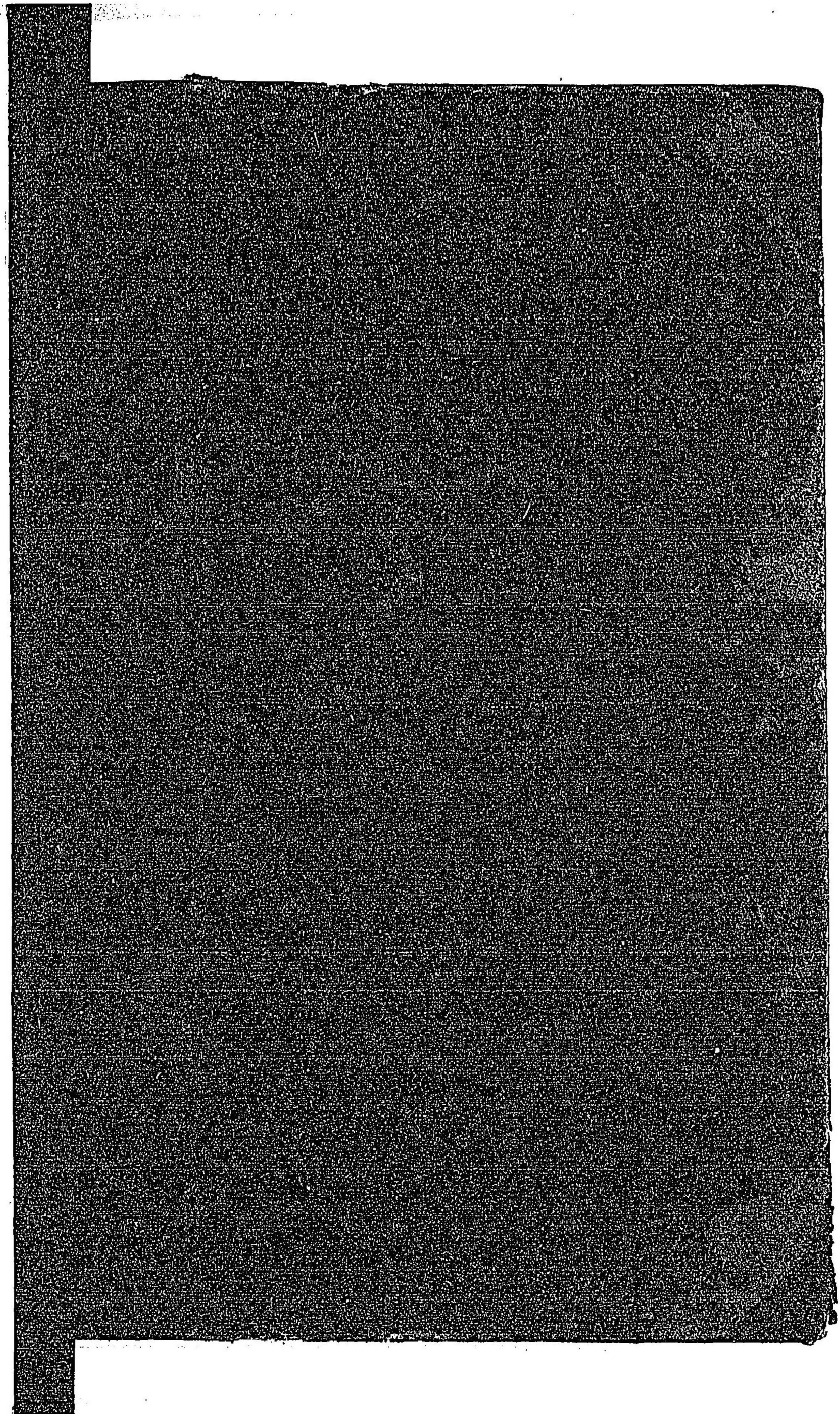
發行所 仙臺產婆學校

仙臺市立町通九番地



52

56
62



059868-000-7

56-62

産婆学 (摘要問題)

千葉 寅治 / 編

M42

CBI-0116

